



山梨市観光振興計画

「おもてなしの心をおみやげに」
～山梨市のブランド化とツーリズム推進～



はじめに



山梨市は、甲府盆地の東部に位置し、都心から約100km圏、JR中央線、中央自動車道で90分という交通の利便性に恵まれ、秩父多摩甲斐国立公園内にある北部の山々、西沢渓谷に代表される豊かな自然、ももやぶどうなどの果樹、貴重な文化財、湯量豊富な温泉など多くの観光資源にあふれています。

さて、地方自治体においては、少子高齢化や厳しい財政状況など、めまぐるしく変化し続ける社会情勢への対応が迫られ、本格的な地方分権時代に対応できる「自己決定、自己責任」による行政運営などが求められています。また、国においても、経済波及効果の大きい観光が、力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野であるとされ、平成20年10月に観光庁が設置されるなど、観光行政を取り巻く環境は大きく変化しています。

本市においても、平成23年3月に「おもてなしの心をおみやげに」を基本理念とした山梨市観光指針を作成し、施策展開を進めてまいりました。しかし、人々のライフスタイルの急速な変化や、2020年の東京オリンピック/パラリンピック開催を見据えたアジアをはじめとする外国人観光客の誘客促進への対応など、観光行政に求められるニーズは、ますます多様化しています。

こうした観光を取り巻く環境の変化に対応するために、これまで取り組んできた観光振興施策、事業を検証し、数値目標を設定するとともに、観光拠点の整備強化や新たな観光資源の創出、人材育成など、幅広い分野に着目し、より広がりのある観光振興のための施策に取り組んでいくため、この度、山梨市観光振興計画を策定しました。

計画の推進にあたり、市民や関連団体、民間事業者、観光協会、行政などがそれぞれの役割を担い、互いに協力しながら取り組める体制を強固なものにしていくとともに、さらなる観光振興の実現に向け歩みを進めていきたいと考えています。

結びに、新たな計画の策定にあたりましては「山梨市観光振興計画策定委員会」の皆様をはじめ、市民の皆様、また民間事業者や観光関連団体の皆様から、多くの貴重なご意見やご提言をいただきました。改めて皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

平成29年3月

山梨市長 望月 清賢

目次

第1章 計画の策定にあたり	1
1 計画の背景	2
2 計画の目的	3
3 計画の期間	3
第2章 山梨市観光の現状と課題	5
1 山梨県および山梨市における観光客入込状況	6
2 アンケートおよびヒアリングから見える山梨市の観光について	13
3 観光資源	15
4 山梨市の観光を取り巻く動向	21
5 山梨市の観光の課題	22
第3章 基本方針と施策体系	23
1 基本方針	24
2 施策体系	25
第4章 具体施策	27
1 【基本方針1】地域資源を活用した観光メニューの提供	28
2 【基本方針2】ターゲットに応じた観光情報の提供	30
3 【基本方針3】観光基盤の整備・拡充	32
4 【基本方針4】東京オリンピック/パラリンピックを見据えた インバウンド観光への対応	34
5 【基本方針5】推進体制の構築	36
参考資料	37
アンケート結果	38
山梨市観光振興計画策定委員会 委員名簿	53
策定経緯	54

第1章

計画の策定にあたり

1 計画の背景

山梨市は、自然、文化、歴史、産業など豊富な地域資源に恵まれた首都圏を代表する観光地です。本市では「おもてなしの心をおみやげに」を基本理念に、平成 23 年度～28 年度を実施期間とした山梨市観光指針を策定し、恵まれた観光資源を有効に活用し、観光振興を図るため各種施策に取り組んできました。

現在の我が国における観光を取り巻く環境は、大きく変化しつつあります。国内における観光ニーズは「団体旅行」から「個人・グループ旅行」へ、「物の消費」から「事の体験」へと向かい、観光に対して多種多様な価値が求められる時代となりました。また、政府はビジットジャパンキャンペーン（VJC）（※1）を展開し、官民挙げて訪日外国人旅行者数を増やす活動を推進しています。その結果、VJC が開始される前年（平成 15 年）に年間 524 万人だった訪日外国人旅行者数は、平成 27 年に年間 1,973 万人を超え、2,000 万人の大台に迫りました。

旅行者を受け入れる地域においても、観光振興は地域経済の活性化に寄与するだけでなく、地域住民の創意工夫により、固有の文化、歴史、産業に焦点を当てた地域の魅力を創出し、誇りをもてる地域社会の実現を促進する役割も担うようになるなど、観光振興の持つ意味も変化しつつあります。

観光地づくりのあり方が大きく変化する時代を迎えている今、これまでの観光施策の成果と課題を踏まえながら、時代の流れとニーズを的確に把握し、観光振興に関する様々な施策を市民、民間事業者、観光関連団体、行政が協働のもと総合的、かつ効果的に推進するため、新たな観光振興計画を策定します。

※1：国土交通省が中心となって行っている、外国人旅行者の訪日促進活動

2 計画の目的

本計画は、第2次山梨市まちづくり総合計画（平成29年3月策定）に掲げる「～^{ほこ}誇れる日本を、ここ山梨市から。～」の実現に向け、本市の観光振興の考え方と施策の方向性を定めた基本計画です。

山梨市の観光資源を磨き上げることで魅力をさらに高め、効果的にPRすることで、観光による流入人口を増大させ、一層の経済効果を生み出し活力ある地域社会をつくるための観光政策の推進を目指します。

また、計画を市民、民間事業者、観光関連団体、行政などが協働により推進することで、誇りをもてる地域社会の実現を目指します。

3 計画の期間

本計画の対象期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間とします。

なお、この計画期間中においても見直しを行う可能性があります。

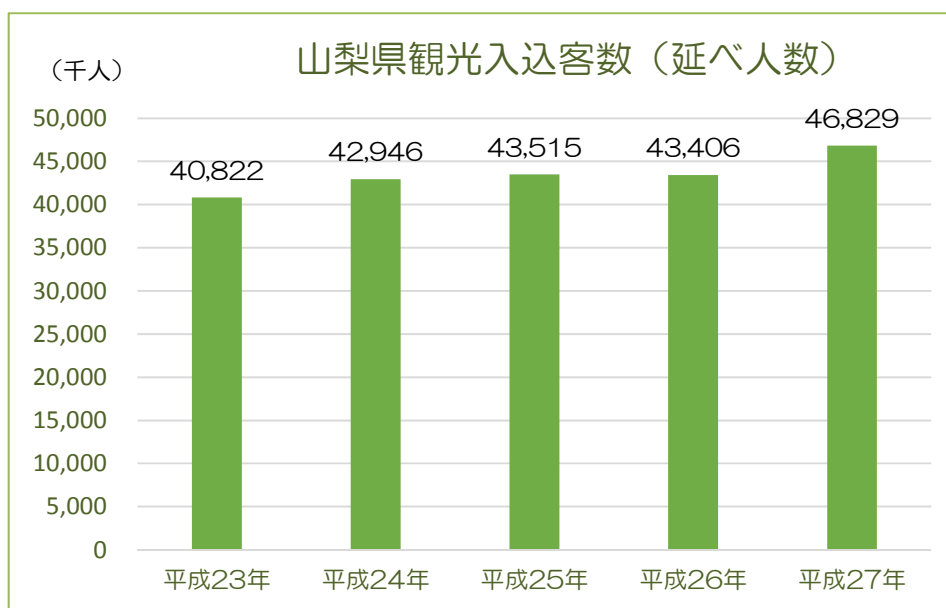
第2章

山梨市観光の現状と課題

1 山梨県および山梨市における観光客入込状況

(1) 山梨県における観光客入込状況の推移

平成27年の山梨県への観光入込客数は、延べ人数で46,829千人と推計され、前年比(43,406千人)で107.9%となっています。また、平成23年からの推移を見ると、毎年増加しており、平成27年までの5年間で114.7%となっています。



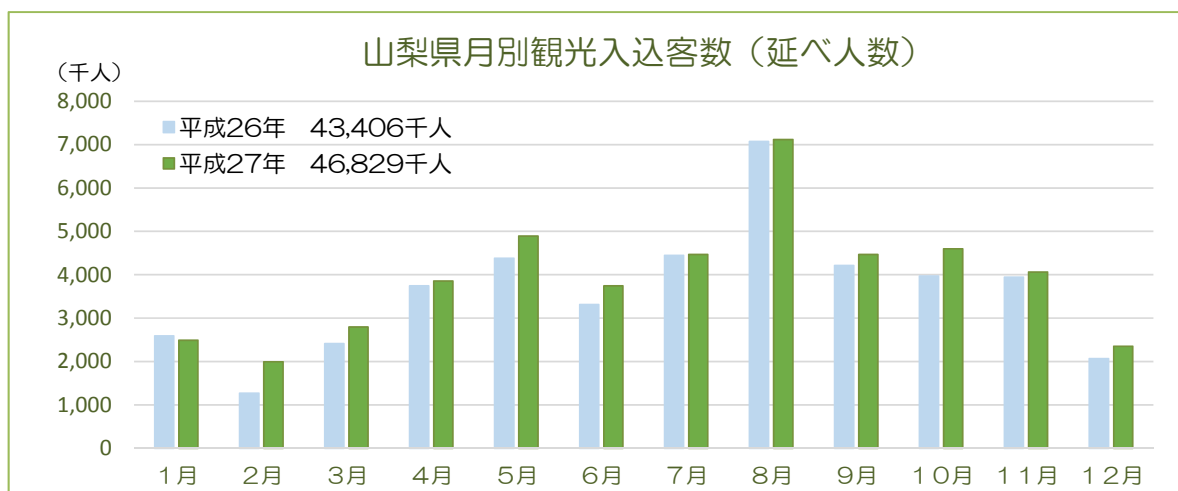
調査年	観光入込客数 (人)	前年比 (%)	平成23年比 (%)
平成23年	40,821,535	—	100.0%
平成24年	42,946,052	105.2%	105.2%
平成25年	43,514,563	101.3%	106.6%
平成26年	43,405,941	99.8%	106.3%
平成27年	46,828,598	107.9%	114.7%

出所：山梨県観光入込客統計調査報告書（各年）

(2) 山梨県における月別観光客入込状況

平成27年の山梨県への観光入込客数を月別に見ると、8月が7,116千人、5月が4,892千人、10月が4,597千人となり、この3ヶ月で年間入込客の35.4%を占めていることが分かります。観光ハイシーズンであることに加え、本県の観光における特徴と強み（自然・果物狩り）が表れています。前年比で見ると、2月、3月、10月などで入込客数の増加率が高くなっています。

主な出来事として、4月～6月には、7年に一度の甲斐善光寺の御開帳、山梨リニア実験線における超伝導リニア車両の世界最高速度記録などがありました。10月は韮崎市（峡北圏域）出身の大村智・北里大学特別荣誉教授のノーベル医学生理学賞受賞により注目度が高まりました。また2月～3月は、前年の山梨県観測史上最高の積雪量による入込客数激減から回復し、大幅に増加しています。

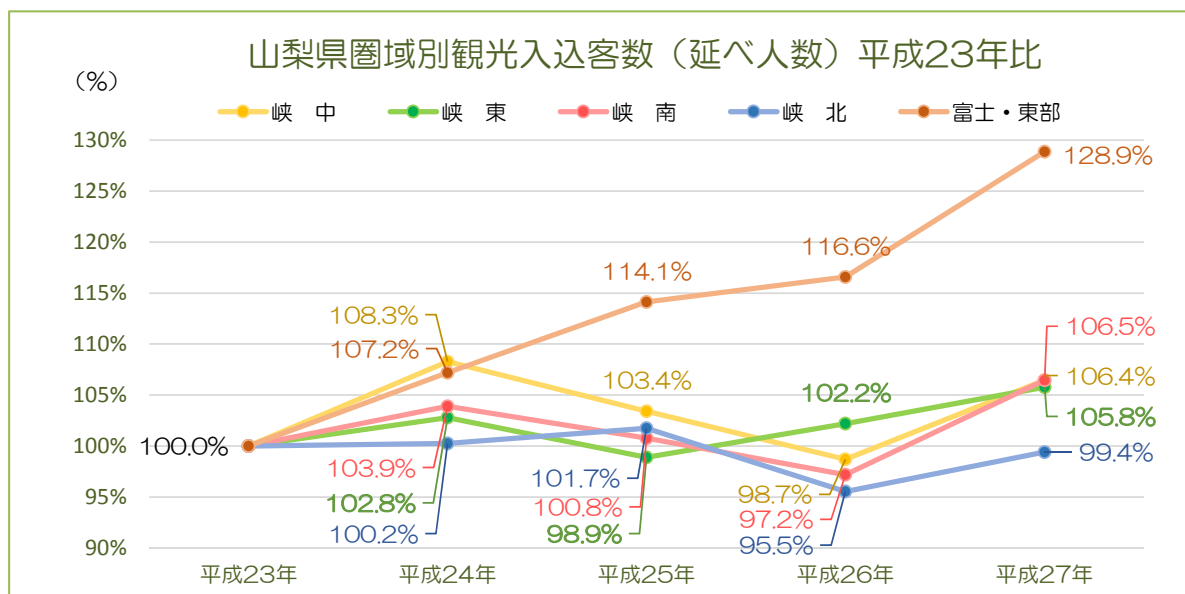
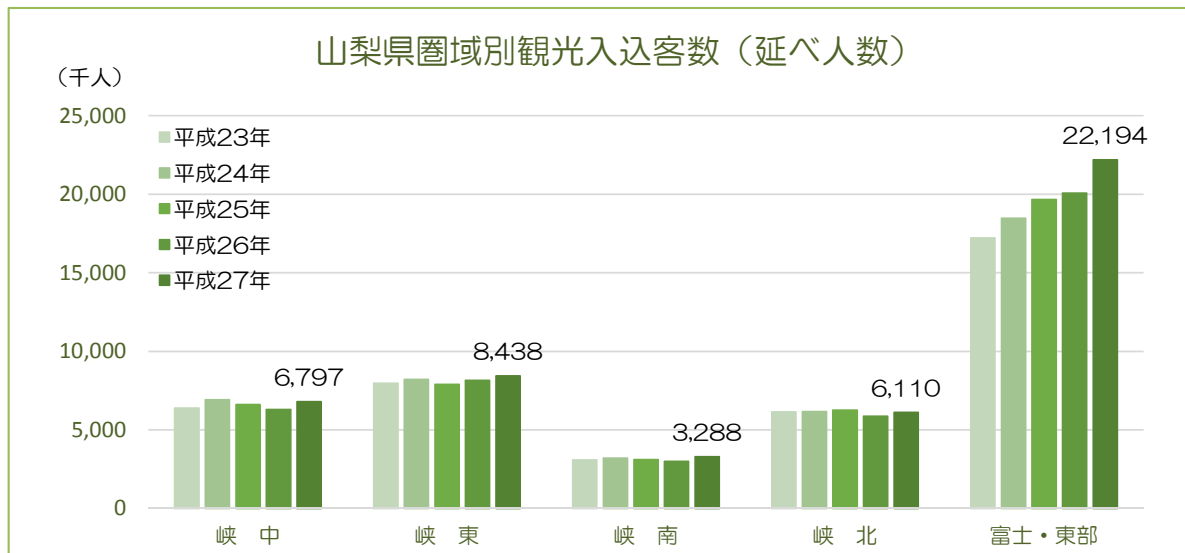


調査月	平成26年		平成27年		前年比 (%)
	観光入込客数 (人)	構成比 (%)	観光入込客数 (人)	構成比 (%)	
1月	2,593,117	6.0%	2,491,945	5.3%	96.1%
2月	1,268,309	2.9%	1,996,173	4.3%	157.4%
3月	2,413,213	5.6%	2,797,130	6.0%	115.9%
4月	3,740,813	8.6%	3,856,074	8.2%	103.1%
5月	4,377,546	10.1%	4,891,603	10.4%	111.7%
6月	3,311,455	7.6%	3,744,916	8.0%	113.1%
7月	4,443,205	10.2%	4,464,418	9.5%	100.5%
8月	7,068,887	16.3%	7,116,194	15.2%	100.7%
9月	4,212,828	9.7%	4,462,633	9.5%	105.9%
10月	3,971,317	9.1%	4,597,116	9.8%	115.8%
11月	3,940,010	9.1%	4,062,443	8.7%	103.1%
12月	2,065,241	4.8%	2,347,953	5.0%	113.7%
年計	43,405,941	100.0%	46,828,598	100.0%	107.9%

出所：平成27年山梨県観光入込客統計調査報告書

(3) 圏域別観光客入込状況の推移

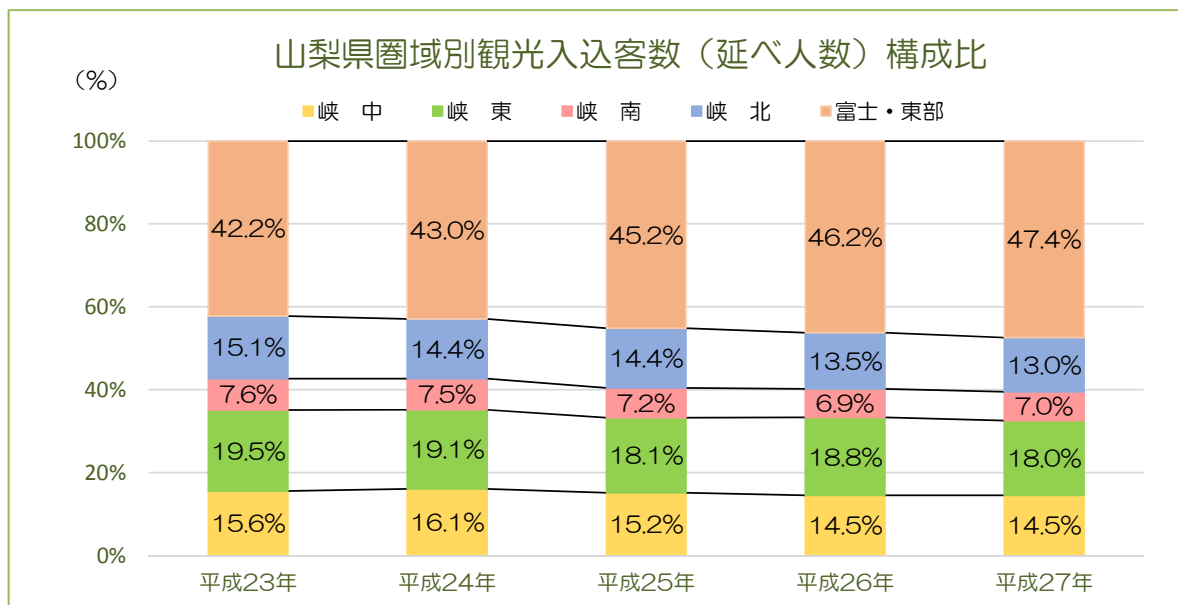
平成27年に山梨県を訪れた観光客数を圏域別に見ると、富士・東部圏域が22,194千人(平成23年比128.9%)で最多となり、次いで山梨市を含む峡東圏域(8,438千人、同105.8%)、峡中圏域(6,797千人、同106.4%)、峡北圏域(6,110千人、同99.4%)、峡南圏域(3,288千人、同106.5%)となっており、富士・東部圏域の伸びが目立ちます。



圏域名	観光入込客数（人）					平成23年比（%）				
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
峡中	6,385,720	6,914,508	6,604,333	6,302,344	6,797,119	100.0%	108.3%	103.4%	98.7%	106.4%
峡東	7,977,892	8,200,413	7,888,286	8,153,410	8,438,471	100.0%	102.8%	98.9%	102.2%	105.8%
峡南	3,088,505	3,208,841	3,112,378	3,001,585	3,288,242	100.0%	103.9%	100.8%	97.2%	106.5%
峡北	6,148,280	6,162,902	6,254,324	5,873,632	6,110,492	100.0%	100.2%	101.7%	95.5%	99.4%
富士・東部	17,221,138	18,459,388	19,655,242	20,074,970	22,194,274	100.0%	107.2%	114.1%	116.6%	128.9%
年計	40,821,535	42,946,052	43,514,563	43,405,941	46,828,598	100.0%	105.2%	106.6%	106.3%	114.7%

出所：山梨県観光入込客統計調査報告書（各年）

構成比では、平成27年は富士・東部圏域が47.4%、次いで峡東圏域の18.0%、峡中圏域14.5%、峡北圏域13.0%、峡南圏域7.0%となっています。また、平成23年からの推移を見ると、富士・東部圏域が毎年4割以上を占めるとともに、構成比率も年々高まっており、強い集客力を持っていることが分かります。



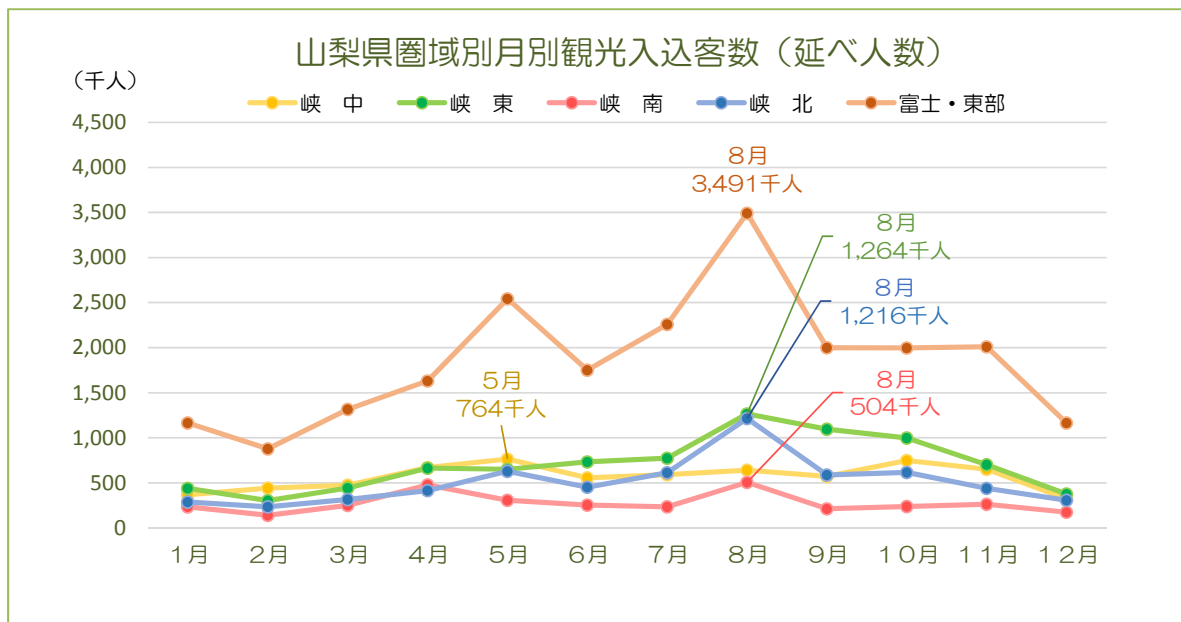
圏域名	観光入込客数（人）					構成比（%）				
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
峡中	6,385,720	6,914,508	6,604,333	6,302,344	6,797,119	15.6%	16.1%	15.2%	14.5%	14.5%
峡東	7,977,892	8,200,413	7,888,286	8,153,410	8,438,471	19.5%	19.1%	18.1%	18.8%	18.0%
峡南	3,088,505	3,208,841	3,112,378	3,001,585	3,288,242	7.6%	7.5%	7.2%	6.9%	7.0%
峡北	6,148,280	6,162,902	6,254,324	5,873,632	6,110,492	15.1%	14.4%	14.4%	13.5%	13.0%
富士・東部	17,221,138	18,459,388	19,655,242	20,074,970	22,194,274	42.2%	43.0%	45.2%	46.2%	47.4%
年計	40,821,535	42,946,052	43,514,563	43,405,941	46,828,598	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出所：山梨県観光入込客統計調査報告書（各年）

(4) 各圏域における月別観光客入込状況

平成27年に関して、観光客数が最も多い月は、峡中圏域が5月（764千人）、峡東圏域が8月（1,264千人）、峡南圏域が8月（504千人）、峡北圏域が8月（1,216千人）、富士・東部圏域が8月（3,491千人）となっており、峡中圏域を除く4圏域で観光ハイシーズンの8月が最も多くなっています。

また、構成比では、富士・東部圏域がどの月も4～5割を占めており、強い集客力を持っていることが分かります。

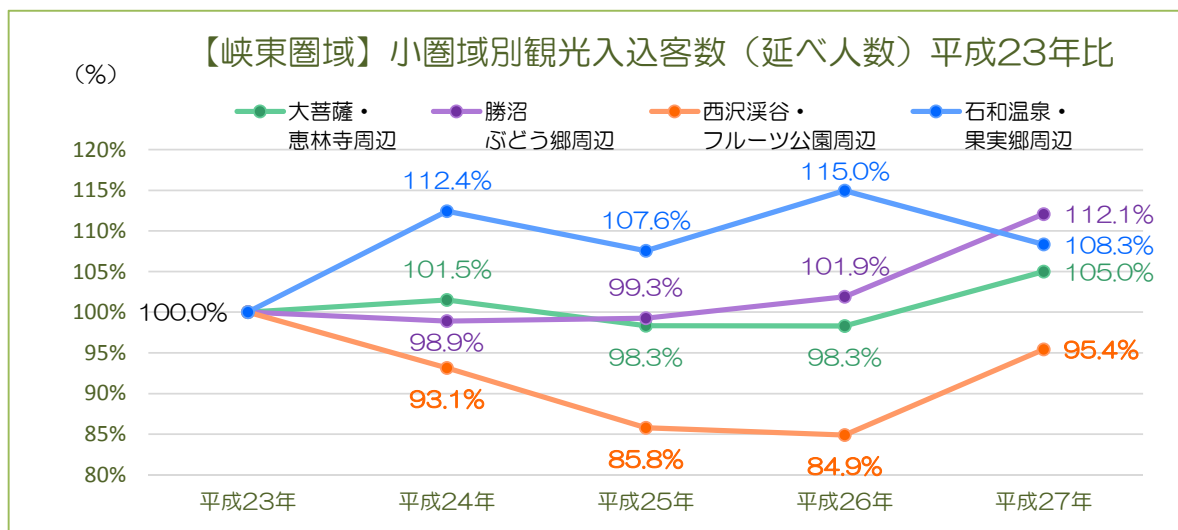
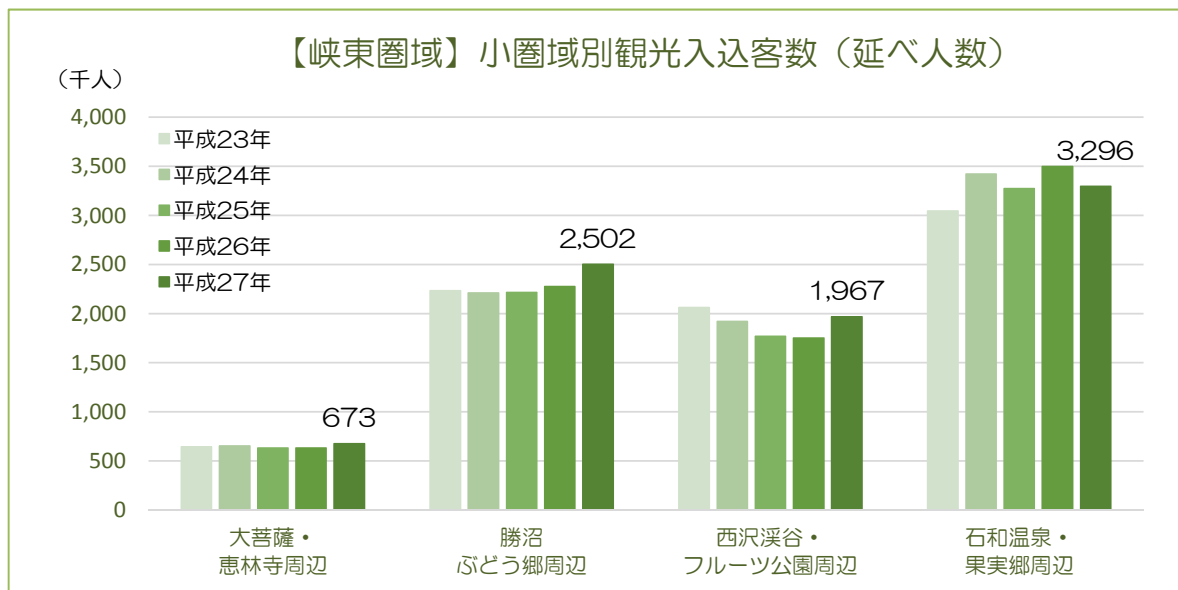


調査月	平成27年観光入込客数（人）					平成27年観光入込客数 月別構成比（%）				
	峡中	峡東	峡南	峡北	富士・東部	峡中	峡東	峡南	峡北	富士・東部
1月	365,439	439,886	234,440	288,705	1,163,475	14.7%	17.7%	9.4%	11.6%	46.7%
2月	443,298	304,978	138,420	232,668	876,809	22.2%	15.3%	6.9%	11.7%	43.9%
3月	473,233	442,728	249,469	317,209	1,314,491	16.9%	15.8%	8.9%	11.3%	47.0%
4月	669,044	662,989	478,530	414,133	1,631,378	17.4%	17.2%	12.4%	10.7%	42.3%
5月	763,654	651,123	308,117	627,522	2,541,187	15.6%	13.3%	6.3%	12.8%	51.9%
6月	555,097	733,233	253,278	453,202	1,750,106	14.8%	19.6%	6.8%	12.1%	46.7%
7月	589,121	772,451	234,449	611,128	2,257,269	13.2%	17.3%	5.3%	13.7%	50.6%
8月	641,797	1,263,910	504,085	1,215,514	3,490,888	9.0%	17.8%	7.1%	17.1%	49.1%
9月	572,183	1,093,724	211,612	586,038	1,999,076	12.8%	24.5%	4.7%	13.1%	44.8%
10月	749,461	996,133	237,702	616,365	1,997,455	16.3%	21.7%	5.2%	13.4%	43.5%
11月	651,145	700,235	262,532	440,071	2,008,460	16.0%	17.2%	6.5%	10.8%	49.4%
12月	323,647	377,081	175,608	307,937	1,163,680	13.8%	16.1%	7.5%	13.1%	49.6%

出所：平成27年山梨県観光入込客統計調査報告書

(5) 峡東圏域（山梨市を含む）における観光客入込状況の推移

峡東圏域では、「大菩薩・恵林寺周辺」・「勝沼ぶどう郷周辺」・「西沢渓谷・フルーツ公園周辺」・「石和温泉・果実郷周辺」の4つの小圏域において、入込客数調査を行なっています。これによると平成27年は、「石和温泉・果実郷周辺」が3,296千人（平成23年比108.3%）と最も多く、次いで「勝沼ぶどう郷周辺」（2,502千人、同112.1%）、「西沢渓谷・フルーツ公園周辺（山梨市）」（1,967千人、同95.4%）、「大菩薩・恵林寺周辺」（673千人、同105.0%）となっています。



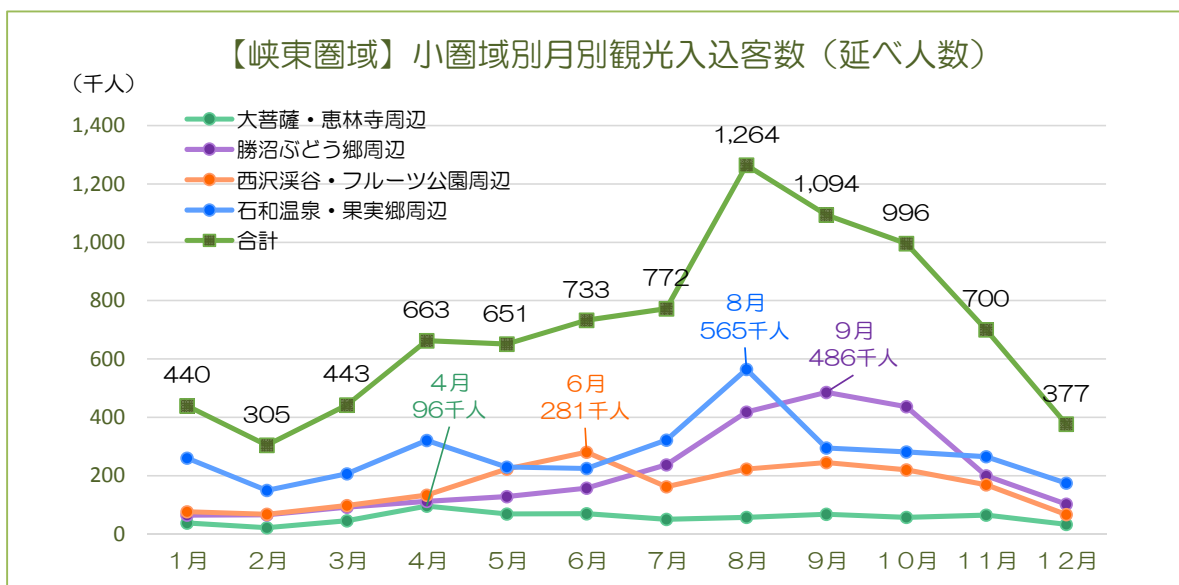
峡東圏域／小圏域名	観光入込客数（人）					平成23年比（%）				
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
大菩薩・恵林寺周辺	641,390	651,093	630,771	630,609	673,386	100.0%	101.5%	98.3%	98.3%	105.0%
勝沼ぶどう郷周辺	2,232,518	2,208,467	2,216,256	2,274,811	2,502,111	100.0%	98.9%	99.3%	101.9%	112.1%
西沢渓谷・フルーツ公園周辺	2,060,849	1,919,613	1,767,768	1,749,630	1,966,586	100.0%	93.1%	85.8%	84.9%	95.4%
石和温泉・果実郷周辺	3,043,135	3,421,240	3,273,491	3,498,360	3,296,388	100.0%	112.4%	107.6%	115.0%	108.3%
合計	7,977,892	8,200,413	7,888,286	8,153,410	8,438,471	100.0%	102.8%	98.9%	102.2%	105.8%

出所：山梨県観光入込客統計調査報告書（各年）

(6) 峡東圏域（山梨市を含む）における月別観光客入込状況

峡東圏域の観光入込客数を月別に見ると（平成27年）、8月が1,264千人と突出しており、次いで9月、10月、7月、6月の順になっています。観光ハイシーズンに加え、フルーツ狩りの季節と重なり、多くの観光客が訪れています。一方、12月、1月、2月の冬季においては、8月に比べ2～3割程度にとどまっています。

4つの小圏域別に最も多い月は、「大菩薩・恵林寺周辺」が4月（96千人）、「勝沼ぶどう郷周辺」が9月（486千人）、「西沢渓谷・フルーツ公園周辺（山梨市）」が6月（281千人）、「石和温泉・果実郷周辺」が8月（565千人）となっており、小圏域別でピークが分散している状況です。



調査月	【峡東圏域】小圏域別 平成27年観光入込客数（人）				合計
	大菩薩・恵林寺周辺	勝沼ぶどう郷周辺	西沢渓谷・フルーツ公園周辺	石和温泉・果実郷周辺	
1月	38,165	65,470	76,206	260,045	439,886
2月	21,419	65,612	68,203	149,744	304,978
3月	45,985	91,692	98,017	207,034	442,728
4月	96,219	112,446	133,465	320,859	662,989
5月	69,389	128,657	223,391	229,686	651,123
6月	70,272	157,414	280,770	224,777	733,233
7月	50,786	237,228	162,096	322,341	772,451
8月	57,744	418,164	223,214	564,788	1,263,910
9月	67,616	486,061	244,650	295,397	1,093,724
10月	57,024	436,850	220,387	281,872	996,133
11月	65,560	200,107	169,388	265,180	700,235
12月	33,207	102,410	66,799	174,665	377,081

平成27年8月（合計）に対する割合											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
34.8%	24.1%	35.0%	52.5%	51.5%	58.0%	61.1%	100.0%	86.5%	78.8%	55.4%	29.8%

出所：平成27年山梨県観光入込客統計調査報告書

2 アンケートおよびヒアリングから見える山梨市の観光について

(1) 調査概要

本市では、平成27年4月から12月にかけて東京都内および山梨県内で、アンケート調査を行いました。

1. 調査の目的

山梨市の観光についてアンケート調査を実施し、性別・年齢階層別の分析をすることにより旅行の目的や訪問先、旅行での満足度、要望などを明らかにする。

2. 調査期間 平成27年4月～12月

3. 調査地点とサンプル数

調査地点	サンプル数
西沢溪谷山開き	149
調布パルコ 観光PRキャンペーン	42
万葉うたまつりとホテル観賞会	14
横須賀 観光PRキャンペーン	12
森林セラピー体験ツアー（平成27年10月7・8日）	6
森林セラピー体験ツアー（平成27年10月24日）	9
西沢溪谷ハイキングツアー（米軍関係者）	24
東京都庁 観光PRキャンペーン	208
合計	464

4. 調査方法 回答者がその場で記入するアンケート調査

(2) 主な調査結果

①一般的な旅行ニーズに関して

普段、旅行をするときに主に使う交通手段は、「自動車・バイク」が44.3%と最も多く、次いで「電車」(36.1%)、「団体旅行」(11.2%)の順となっています。

主な旅行形態は、「日帰り」が54.1%、「宿泊」が44.4%と、やや日帰りが多くなっています。「宿泊」と回答した人の宿泊数は、「1泊2日」が40.8%と最も多く、「2泊3日」(30.5%)と合わせると、71.3%の回答率を占めており、短期間の旅行客が多いことが見受けられます。

旅行計画を立てる際に参考とするものとしては、「インターネット」が28.8%と最も多く、次いで「ガイドブック」(16.6%)、「口コミ」(14.2%)の順となっています。

②山梨市や山梨県への旅行等に関して

山梨市の認知度(山梨市のことを知っているか)は、「多少は知っている」(65.5%)、「名前を知っている程度」(18.3%)、「ほとんど知らない」(9.7%)の順となっています。

アンケート回答者が興味を示している県内観光地は、「富士山周辺」が17.7%と最も多く、次いで「八ヶ岳・小淵沢」(14.9%)、「南アルプス市」(12.2%)の順となっています。

3 観光資源

(1) 観光施設

山梨市駅の西側の高台に位置する「笛吹川フルーツ公園」は、「新日本三大夜景」に認定された全国屈指の夜景の名所であり、日中には甲府盆地を挟んで、富士山や南アルプスなどの山々が一望できるなど、優れた眺望に恵まれた山梨市の観光の核となる施設です。

一方、鉄道王の異名を持つ山梨市出身の実業家、根津嘉一郎の生家を復元・改修した「根津記念館」や地域の特産品を販売する道の駅など、観光面でのさらなる活用が期待される施設もあります。

また、駅前の観光案内所では、地域の観光ボランティアガイドが観光案内を行っています。



▲ 笛吹川フルーツ公園の夜景



▲ 根津記念館

(2) 自然・山岳資源

本市は、秩父多摩甲斐国立公園の中核部に位置するとともに、面積のおよそ8割を森林が占めるなど自然・山岳資源の宝庫です。日本百名山の甲武信ヶ岳をはじめとする奥秩父主脈の高峰の数々から、抜群の眺望を誇り登山者が絶えない乾徳山や小檜山、標高が低く、冬季にも比較的登山可能な里山など、多種多様な山々を抱えています。また、山梨県を代表する景勝地である西沢渓谷を筆頭に、徳和渓谷、清水渓谷などの風光明媚な渓谷、自然豊かな乙女高原、夢の庭園などは、いずれも観光資源として強い魅力を有しています。

さらに、従来の登山・トレッキングに加えて、森林セラピー体験やサイクリングなど、豊富な自然・山岳資源を生かした数々の新たな取り組みも始まっています。



▲ 金峰山



▲ 秋の西沢溪谷



▲ 森林セラピー体験

(3) 歴史・文化資源

国宝の仏殿を有する清白寺や、武田家に篤く信仰された窪八幡神社を中心に、市内には室町期の建物が数多く残されています。また、宝暦11年（1761年）建築の旧坂本家住宅（三富徳和）をはじめ、市内各地で近世以降に建てられた切妻民家を眺めることができます。

そのほか、山梨県最古の温泉と伝わる岩下温泉旅館や鉄道王根津嘉一郎の生家を復元・改修した根津記念館は近代の様相を感じられるものです。

一方、塩平の獅子舞や徳和の天神祭など、地域固有の華やかな伝統行事が市内各地で行われ、地域文化が継承されています。



▲ 清白寺



▲ 窪八幡神社

(4) 特産品・郷土料理

本市はもも、ぶどうなど果樹栽培が盛んであり、観光農園が数多く存在します。果物狩りを目的に本市を訪れている来訪者は多く、観光における強い吸引力となっています。

一方、本市はワイン産地としても多くの方々に認識されています。その品質は国際的にも高い評価を得ており、観光資源の一つとなっています。また近年では、ワインツーリズムも高い人気を博しており、ワイナリーでは来訪者に対する受け入れ態勢を整えています。

他にも市内の養鱒場ようすんで蓄養されるニジマスはブランド魚「甲斐サーモン」として高い評価を受けています。また、豊かな自然の恵みから作られる和洋菓子なども人気を博しています。

さらに、ほうとうや馬刺しなど、郷土料理を提供している飲食店も数多くあります。



▲ ももの栽培



▲ ぶどうの栽培

(5) 体験

最近、グリーンツーリズムや体験型・参加型ツーリズムに象徴されるように、旅行者が観光に求める価値観は多様化しています。

こうした中で、果物狩りや釣り堀に加え、豊富な森林資源を活用した森林セラピー体験や、西沢溪谷をはじめとするウォーキングガイドやフットパスなども、地域の特色を生かした取り組みとして注目を集めています。



▲ウォーキングガイド



▲農業体験

(6) 温泉

本市には3つの市営温泉のほか、武田信玄の隠し湯として知られる岩下温泉や川浦温泉、フルーツ公園周辺に位置し景観が魅力のほったらかし温泉、やまなしフルーツ温泉ぷくぷく、万葉の湯、養鰻場が付随している正徳寺温泉、源泉をミネラルウォーターに加工しているはやぶさ温泉など特徴的な温泉が数多くあります。

(7) イベント・行事

本市は、一年を通じ魅力的なイベント、行事が数多く開催されています。代表的なものとしては、万カ公園（万葉の森）で開催される「万葉うたまつりとホテル観賞会」、道の駅みとみ特設会場で開催される「笛吹川源流まつり」、笛川小学校をメイン会場とする「巨峰の丘マラソン大会」があげられます。

そのほか、市民団体が主体となって開催される「桃の花まつり」や「朝市」など新たな動きもあります。

＜山梨市の主な観光資源一覧＞

公園 ・ 観光施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笛吹川フルーツ公園 ・ 万力公園（万葉の森） ・ 彩甲斐公園 ・ 山梨市駅前観光案内所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街の駅やまなし（山梨市地域交流センター） ・ 道の駅（花かげの郷まきおか、みとみ） ・ JA フルーツ山梨、共選所、直売所
自然・山岳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西沢渓谷 ・ 徳和渓谷 ・ 清水渓谷と名瀑一之釜 ・ 甲武信ヶ岳 ・ 金峰山 ・ 大弛峠と夢の庭園 ・ 国師ヶ岳と北奥千丈岳 ・ 雁坂嶺と雁坂峠 ・ 鶏冠山（とさか山） ・ 破風山 ・ 笠取山 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒金山 ・ 乾徳山 ・ 小樽山 ・ 帯那山 ・ 兜山 ・ 棚山 ・ 乙女高原 ・ 大平高原 ・ 広瀬湖（広瀬ダム） ・ 乙女湖（琴川ダム） ・ 友沢・仏沢・大石山の奇岩群
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根津記念館 ・ 横溝正史館 ・ 牧丘郷土文化館 ・ 清白寺 ・ 窪八幡神社 ・ 天神社 ・ 中牧神社 ・ 山梨岡神社（石森山） ・ 永昌院 ・ 吉祥寺 ・ 洞雲寺 ・ 大嶽山那賀都神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川浦口留番所 ・ 鍵懸の関跡 ・ 雁行提 ・ 差出の磯 ・ 大石神社（大石山） ・ 焼山峠の子授け地蔵 ・ かのがわ古道 ・ 塩平の獅子舞 ・ 徳和の天神祭 ・ 隼の大わらじ ・ 岩下古墳群
特産品 ・ 郷土料理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果物（もも、ぶどう、さくらんぼ、いちご、すもも、柿、りんご、キウイフルーツなど） ・ ワイン ・ 甲斐サーモン ・ 和菓子、洋菓子（草餅、果物を使った和菓子、ケーキ 他） ・ ほうとう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ とりもつ ・ 馬刺し ・ 馬レバー ・ 焼きもつ、煮もつ ・ イノブタ料理 ・ そば ・ おざら
体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果物狩り ・ 釣り堀 ・ 焼き物（窯元） ・ 農作業体験 ・ ワイナリー見学、試飲、ワインツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フットパス ・ 森林セラピー ・ ウォーキングガイド ・ 観光ガイド
温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花かげの湯 ・ 鼓川温泉 ・ みとみ笛吹の湯 ・ ちどり温泉 ・ 川浦温泉 ・ 三富温泉 ・ 一之橋温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩下温泉 ・ やまなしフルーツ温泉ぷくぷく ・ ほったらかし温泉 ・ 万葉の湯 ・ 正徳寺温泉 ・ はやぶさ温泉

＜山梨市の主なイベント一覧（平成28年度）＞

月	イベント
4月	信玄公まつり出陣式（山梨市役所他） 桃の花まつり（かのがわ広場他） 春の花茶会（笛吹川フルーツ公園） 日吉山王神社春季例大祭（牧丘諏訪地区） 黒戸奈神社春季例大祭（牧丘中牧地区） 大嶽山那賀都神社春季例大祭（三富地区） 吉祥寺毘沙門天会式（三富地区） えがおフェスタ（保健農園ホテルフフ山梨） 西沢渓谷山開き（西沢渓谷） 差出磯大嶽山春例大祭（八幡地区） グリーンフェスタ&こどもまつり in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園） フラメンコイベント（笛吹川フルーツ公園）
5月	グリーンフェスタ&こどもまつり in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園） 大石山つつじ祭（岩手地区） 石森山つつじまつり（加納岩地区） JAPANヒルクライム in 大弛峠（市内）
6月	万葉うたまつりとホテル観賞会（万力公園） フルーツフェスティバルさくらんぼの日（笛吹川フルーツ公園）
7月	山梨市プラモデル展示会（街の駅やまなし） フルーツフェスティバルももの日（笛吹川フルーツ公園） 笛吹川県下納涼花火大会（笛吹川・万力大橋下流）
8月	フルーツフェスティバルもも・ぶどうの日（笛吹川フルーツ公園） 笛吹川源流まつり（道の駅みとみ） 山梨みとみクリスタルトレイルラン&西沢渓谷ウォーク（三富地区）
9月	フルーツフェスティバルぶどうの日（笛吹川フルーツ公園） 巨峰の丘マラソン大会（牧丘地域）
10月	ホビーフェスタ in 街の駅やまなし（街の駅やまなし） 山梨市うまいもの市 in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園） 農産物収穫祭（道の駅みとみ） 窪八幡神社例大祭（八幡地区） 地球元気村収穫祭 in フルーツパーク（笛吹川フルーツ公園） 新日本三大夜景コンサート（笛吹川フルーツ公園）
11月	田舎まつり（道の駅花かげの郷まきおか） いい駅前どっと混むまつり（街の駅やまなし） 乙女高原草刈り（乙女高原）
12月	フルーツ公園のクリスマス（笛吹川フルーツ公園）
1月	New Year Festival HAPPY初日の出（笛吹川フルーツ公園） 塩平の獅子舞（牧丘西保地区） 八幡北打ちばやし（八幡地区） 徳和天神まつり（三富地区）
2月	万力穴観音祭（山梨地区）
3月	隼の大わらじ（牧丘諏訪地区）
年複数回開催	歳時イベント、特別展（根津記念館） 朝の市（山梨市駅前夢の実広場）

4 山梨市の観光を取り巻く動向

(1) 国の動向

政府は、「観光先進国」への新たな国づくりに向けて、平成28年3月30日、「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」（議長：内閣総理大臣）において、新たな観光ビジョンを策定しました。「世界が訪れたい日本」を目指し、東京オリンピック／パラリンピックが開催される2020年における訪日外国人旅行客数の目標を4,000万人としています。

本市の観光と関連が深い施策は、以下のとおりです。

- ・「文化財」を保存優先から観光客目線での理解促進そして活用へ
- ・「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
- ・おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
- ・疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
- ・「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現

(2) 山梨県の動向

山梨県では、やまなし観光推進計画（平成23年～30年）において、「おもてなしの推進」、「多様な観光の振興」、「外国人旅行者の来訪の促進」、「広報宣伝及び情報提供」を進めることとしています。

(3) 山梨市の動向

平成29年3月に策定された、第2次山梨市まちづくり総合計画「～^{ほこ}誇れる日本を、ここ山梨市から。～」は20年から30年後に目指す山梨市の将来像を示した「長期ビジョン」とその実現に向けての戦略を示した「中期計画」の二つからなり、新しい山梨市づくりの指針となります。

また、まち・ひと・しごと創生法に基づく、「山梨市人口ビジョン」及び「山梨市総合戦略」を策定しており、「観光振興により人を呼ぶ」という施策が盛り込まれています。

一方、市の玄関口である山梨市駅周辺では、南北自由通路や南口広場を整備し、駅前のにぎわい創出や、定住拡大を視野に入れた駅南地域の開発に取り組む計画です。

5 山梨市の観光の課題

本市の観光の現状分析を踏まえた上での本市の観光課題は、次のとおりと考えられます。

1. 自然・山岳・果物等豊富な観光資源の活用
2. 東京オリンピック/パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応
3. 市の玄関口である山梨市駅とその周辺の再整備を観光に活用



▲小樽山からの眺望



▲果樹景観

第3章

基本方針と施策体系

1 基本方針

前章で抽出した課題に対して施策を展開していく上で、基本となる方針を以下のように設定します。

1. 地域資源を活用した観光メニューの提供
2. ターゲットに応じた観光情報の提供
3. 観光基盤の整備・拡充
4. 東京オリンピック/パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応
5. 推進体制の構築

2 施策体系

基本方針に基づき、下記のような施策を展開していきます。

基本方針1： 地域資源を活用した観光メニューの提供

- ① 果樹を軸にした観光メニューの開発・強化
- ② 「自然と交流」することをテーマにした観光メニューの開発・強化
- ③ 文化財を軸にした観光メニューの開発・強化

基本方針2： ターゲットに応じた観光情報の提供

- ① 関係団体との連携強化
- ② SNS等を活用した情報発信
- ③ 外国人観光客への積極的なアプローチ

基本方針3： 観光基盤の整備・拡充

- ① 観光ゲートウェイとしての山梨市駅の整備
- ② 観光を支えるハード・ソフトの整備

基本方針4： 東京オリンピック／パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応

- ① 訪日外国人観光客受け入れ体制の強化
- ② 事前合宿の誘致や交流イベントの開催

基本方針5： 推進体制の構築

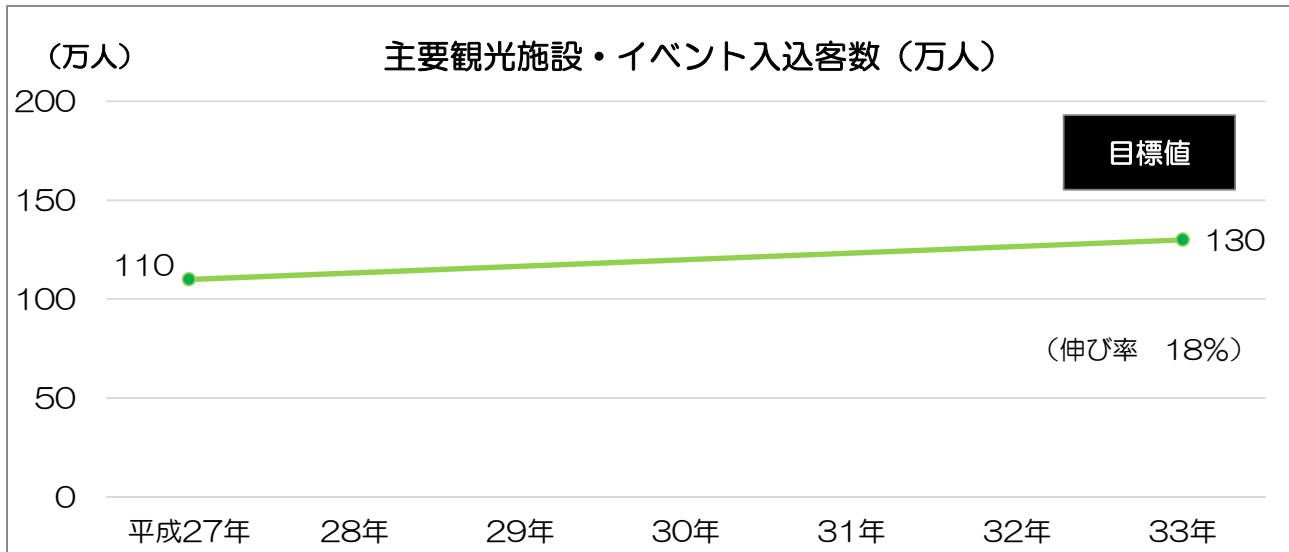
- ① PDCAサイクルの構築

第4章

具体施策

1 【基本方針 1】 地域資源を活用した観光メニューの提供

■評価指標：主要観光施設・イベント入込客数



(1) 果樹を軸にした観光メニューの開発・強化

① ワインリゾート構想の推進

山梨県や隣接自治体と協力し、市内の個性的なワイナリーの情報発信、ワインコンシェルジュ制度（※1）や広域マップの作成などにより、ワインを軸にした広域の長期滞在型リゾートを目指します。これにより、集客力のある富士五湖方面からの周遊を促進します。

② 果樹景観を活用した観光振興

県内屈指の果樹地帯であるメリットを生かし、産地を保全するとともに、桃源郷や一面のブドウ畑のある風景、豊富な果樹を活用した観光振興を推進します。これにより、山梨市のブランドイメージを高めます。

※1：観光関連従事者を対象に峡東地域のワインや観光について一定の研修を行い、観光客をおもてなしする人材の育成をする制度

(2) 「自然と交流」することをテーマにした観光メニューの開発・強化

① 既存の観光資源を有機的に結合させたメニューの開発

西沢渓谷や温泉資源など、既存の観光資源を有機的に結合させることにより新たな魅力を発掘するとともに、日帰り客を含めた観光客の消費喚起を促します。

② 多様なニーズ（スポーツ観光、山岳観光等）に対応した魅力的な観光地の開発

多様なニーズに対応するため、従来の観光に加え、マラソンやトレイルラン（※2）、サイクリング等のスポーツやハイキングツアー等のイベントを開催します。また、高地トレーニングなどに適した地域特性を生かした観光メニューの開発を推進します。

③ 森林資源・温泉資源等を活用したウェルネスツーリズムの開発

平成19年から取り組んできた森林セラピー（※3）の活動を更に発展させ、本市の総面積のおよそ8割を占める森林や豊富な温泉、新鮮な果樹などの資源を生かし、「心身の健康」をテーマにしたウェルネスツーリズム（※4）の拠点となるような地域づくりを推進します。また、宿泊施設と連携して体験メニューの開発を推進します。

④ 都市農村交流の推進

首都圏から100km圏内の立地を活かした果物狩りや農作業体験等、地域住民との交流を活かした着地型観光（※5）を推進します。

(3) 文化財を軸にした観光メニューの開発・強化

① 文化財やパワースポット等を活用したフィールドミュージアム（※6）構想の推進

国宝の仏殿が存在する清白寺や9棟の重要文化財を持つ窪八幡神社、近年パワースポットとして注目されつつある大嶽山那賀都神社、大石神社などの歴史的・文化的資源を軸に、その他の資源を広域的に結び付けたフィールドミュージアム構想の推進を図ります。

※2：未舗装の起伏ある自然の山道を走るタイムレース

※3：癒し効果が科学的に検証された森林浴効果

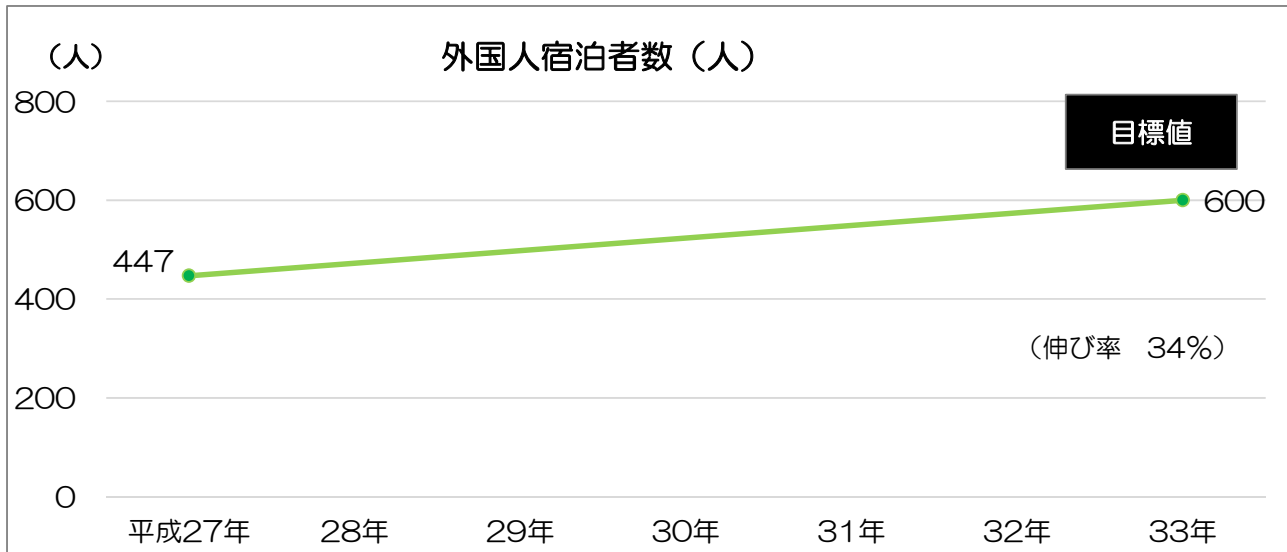
※4：温泉、森林、高原気候などを活かして運動やリラクセス、美容、食事等の健康プログラムを提供する新しい旅行形態

※5：旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品

※6：地域資源（歴史的建造物や史跡、民俗芸能などの文化財及び文化施設などの文化資源、農林業や観光、商業などの産業資源、山や森林またこれらが一体となった文化的景観等、河川、動植物などの自然資源等）を展示物として、地域全体を「野外博物館＝フィールドミュージアム」に見立てた取り組み

2 【基本方針 2】ターゲットに応じた観光情報の提供

■評価指標：外国人宿泊者数



(1) 関係団体との連携強化

①他地域・異種団体との連携強化

DMO（※1）の設立を視野に、隣接自治体や各種団体との連携を強化します。

②地域商社等との連携

着地型旅行商品開発を推進するため、本市で設立準備を進めている地域商社（※2）や既存の旅行会社との連携を図ります。

③地元企業との連携

地元企業との連携により、オリジナル観光メニューや商品開発を推進します。

※1：Destination Management Organization、または「Destination Marketing Organization の略で、多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを実践するための組織

※2：地域に密着して、地域資源の発掘、商品開発、販路開拓等、地域の生産者の活動を全面的にサポートするとともに、全国（海外）へ積極的に地域の商品（特産品等）を売り込んでいく組織

(2) SNS等を活用した情報発信

①観光協会との協力による旬な情報の提供

観光協会と連携し、従来のホームページによる情報発信に加えSNS（※3）（TwitterやFacebookなど）を活用した旬な観光情報の発信を強化します。

(3) 外国人観光客への積極的なアプローチ

①果樹や山岳など豊かな自然を軸にした観光の外国人へのアプローチ

インバウンド観光への第一歩として、在日外国人（特に在日米軍関係者）に対し、果物狩りやハイキング、日本文化体験など本市の観光プロモーションを強化します。

②スポーツ観光の外国人へのアプローチ

サイクリング観光の盛んな台湾向けに、フルーツラインサイクリングコースや大弛峠ヒルクライムコースなどをアピールするなど、スポーツを活用した観光プロモーションを強化します。

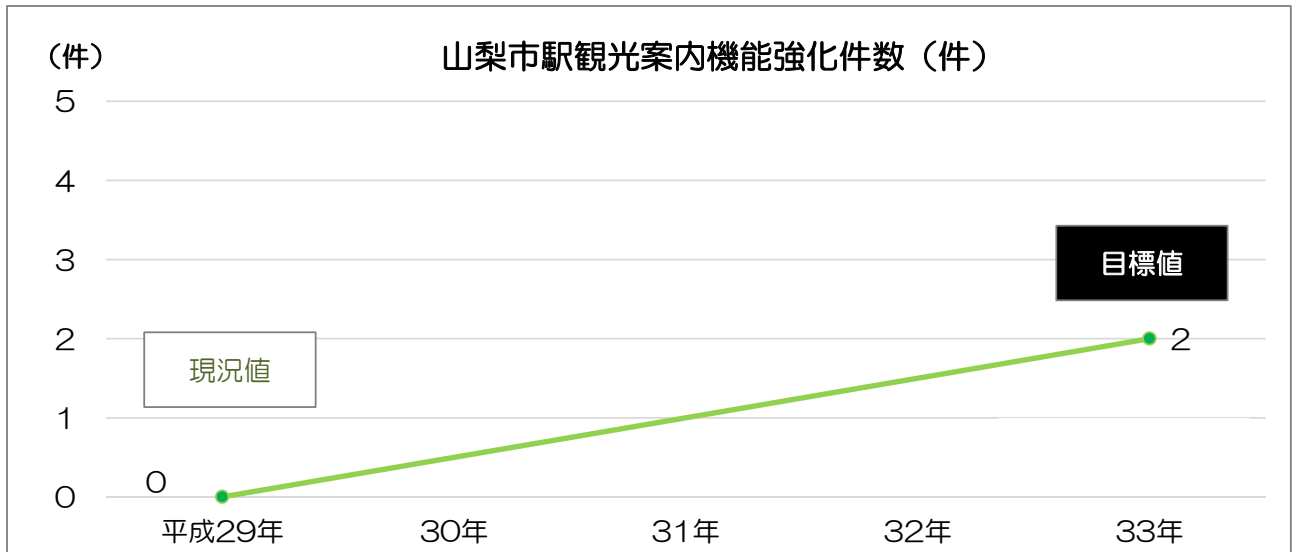
③ワンデートリップの推進

首都圏から日帰り圏内の立地を生かし、日本国内に長期間滞在する外国人観光客向けに、大都市圏等からのワンデートリップ（日帰り観光）による来訪を促進します。

※3：Social Network Serviceの略で、メッセージなどを通じて友人や知人・共通の趣味を持つ人達とインターネット上で繋がることのできるサービス

3 【基本方針 3】 観光基盤の整備・拡充

■評価指標：山梨市駅観光案内機能強化件数（観光案内所・デジタルサイネージ等設置）



(1) 観光ゲートウェイとしての山梨市駅の整備

①観光案内機能の強化と情報発信拠点化の推進

山梨市駅の改修工事（南北自由通路の新設）を機に、山梨市駅を観光ゲートウェイ（※1）として位置づけ、観光案内所やデジタルサイネージ（※2）、無料 Wi-Fi スポット（※3）の設置、周辺施設などとの連携を含めた観光情報の発信機能を強化します。

②駅周辺における賑わい空間形成の推進

山梨市の玄関口である駅周辺に、賑わいのある空間形成を推進します。

※1：玄関、入口

※2：ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステム

※3：店舗や公共の空間などで無線 LAN（Wi-Fi）によるインターネット接続が可能な場所

(2) 観光を支えるハード・ソフトの整備

① 観光インフラの整備・充実

観光資源を活用するために必要なハード・ソフトの整備・拡充を図ります。

また、本市の景観計画やサイン方針などを踏まえ観光案内標示の整備・充実に努め、来訪者が安全で快適に過ごすことができる観光地づくりを目指します。

② おもてなしの心の醸成

「おもてなしの心をおみやげに」をキャッチフレーズに、市民一人ひとりが山梨市の代表であるという意識を持ち、市民や民間事業者、観光関連団体、行政が一体となり、市全体で観光客を温かくおもてなしできる環境を整えます。

あわせて、市内の小中学校における観光教育の推進を図ります。

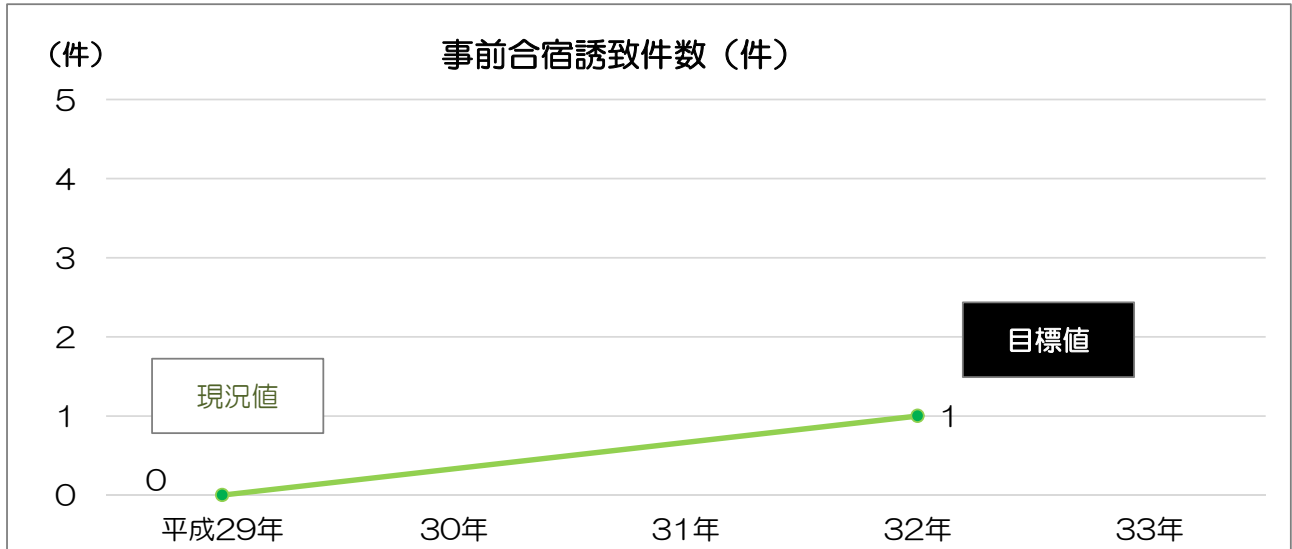
③ ユニバーサルデザイン（※4）の推進

外国人観光客・高齢者・障がい者・子どもなど、誰にとっても使いやすいハード・ソフトの整備・充実を図ります。

※4：文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず、誰もが利用できる施設・製品・情報の設計（デザイン）

4 【基本方針 4】東京オリンピック／パラリンピックを見据えた
インバウンド観光への対応

■評価指標：事前合宿誘致件数



(1) 訪日外国人観光客受け入れ体制の強化

①パンフレット、サイン等の多言語化

外国人観光客向けにパンフレット、サイン、ホームページやSNSなどの観光情報の多言語化を推進します。(英語／中国語を優先)

②日本体験プログラムの開発

根津記念館等を活用し、茶道体験や和菓子作り体験といった「日本体験プログラム」を開発します。

③広域連携体制の強化

関東広域観光周遊ルート形成促進協議会に加盟し、近隣自治体のみならず、都県をまたいだ広域連携体制の推進をはかります。

④外国人が使えるインターネット環境の整備

外国人観光客向けの無料Wi-Fiスポットの整備を推進します。

(2) 事前合宿の誘致や交流イベントの開催

① 東京オリンピック／パラリンピックの事前合宿の誘致

東京オリンピック／パラリンピックの事前合宿を誘致します。

② 交流イベントの開催

事前合宿を行う国の選手・競技関係者等と市民との交流イベントを開催します。

5 【基本方針5】推進体制の構築

(1) PDCA サイクルの構築

① 観光振興推進会議の設置

本計画を推進するため、庁内に副市長を委員長とする観光振興推進会議を設置し、進捗状況の確認や、評価指標値のモニタリングを実施します。

② 外部専門委員会の設置

有識者などをメンバーとする外部専門委員会を設置し、中長期的なマイルストーン（※1）を設定した上で、計画の進捗状況および評価指標値を確認するとともに、適宜、目標値の見直しを行います。また、本計画の進捗状況を評価します。

※1：進捗を管理するために途中で設ける節目

参考資料

■アンケート結果

■山梨市観光振興計画策定委員会 委員名簿

■策定経緯

■ アンケート結果

記号、数値について

SA：単一回答（Single Answer）

MA：複数回答（Multi Answer）

FA：自由回答（Free Answer）

NA：任意に数字を記入（Numeric Answer）

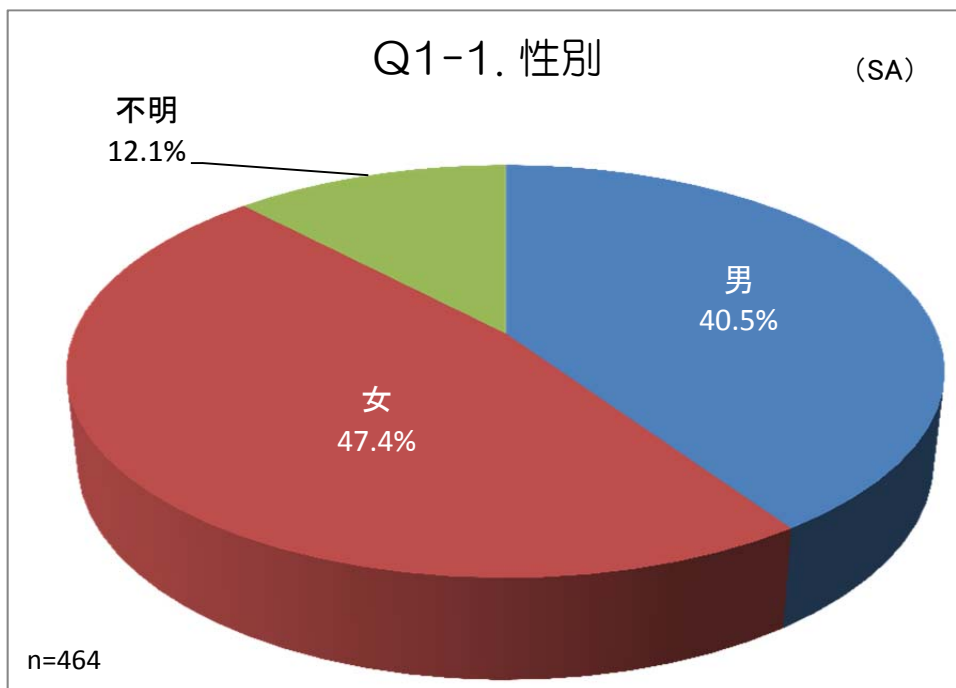
N：回答者数。「n=100」は回答者が100人。

※複数回答における回答率は100%を超える場合があります。

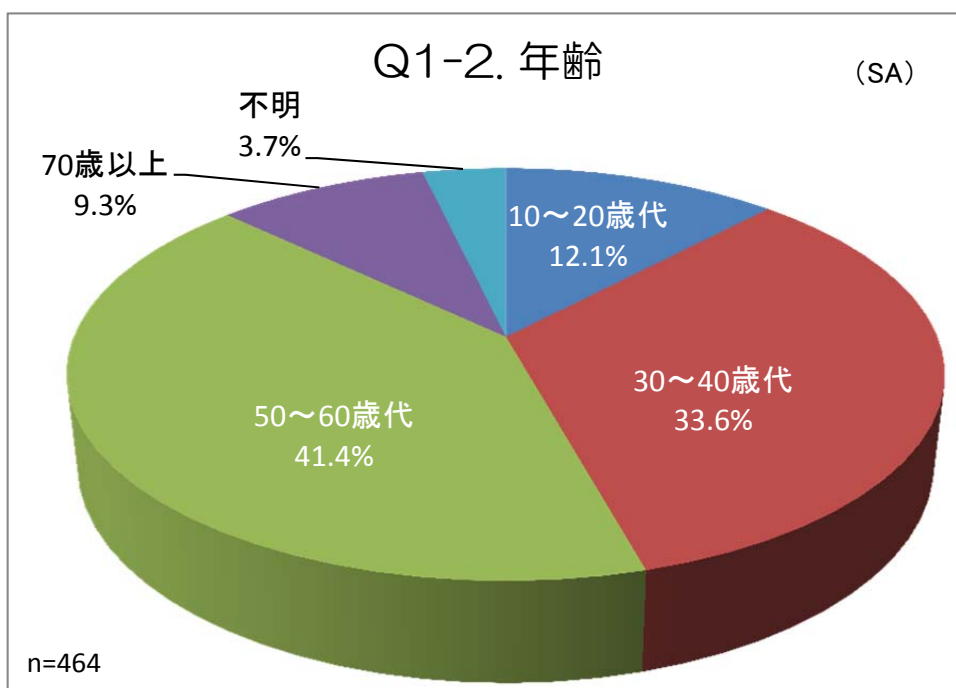
※回答項目の構成比は小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Q1. アンケート回答者の属性（性別・年齢）

男女比は「男性」が40.5%、「女性」が47.4%である。

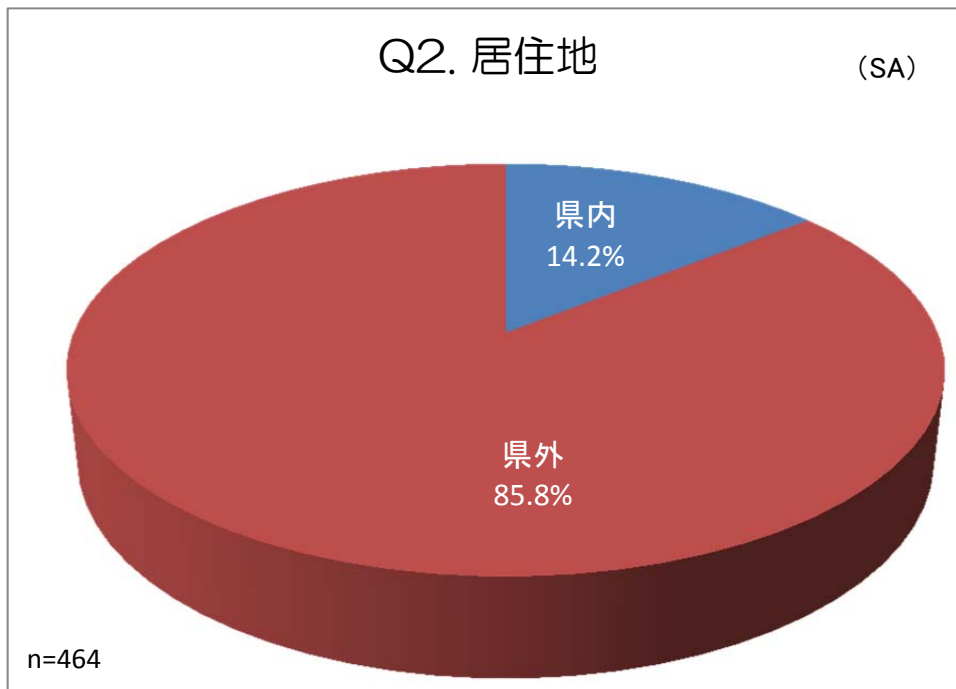


年齢別では、「50～60歳代」が41.4%と最も多く、次いで「30～40歳代」（33.6%）、「10～20歳代」（12.1%）の順となっている。

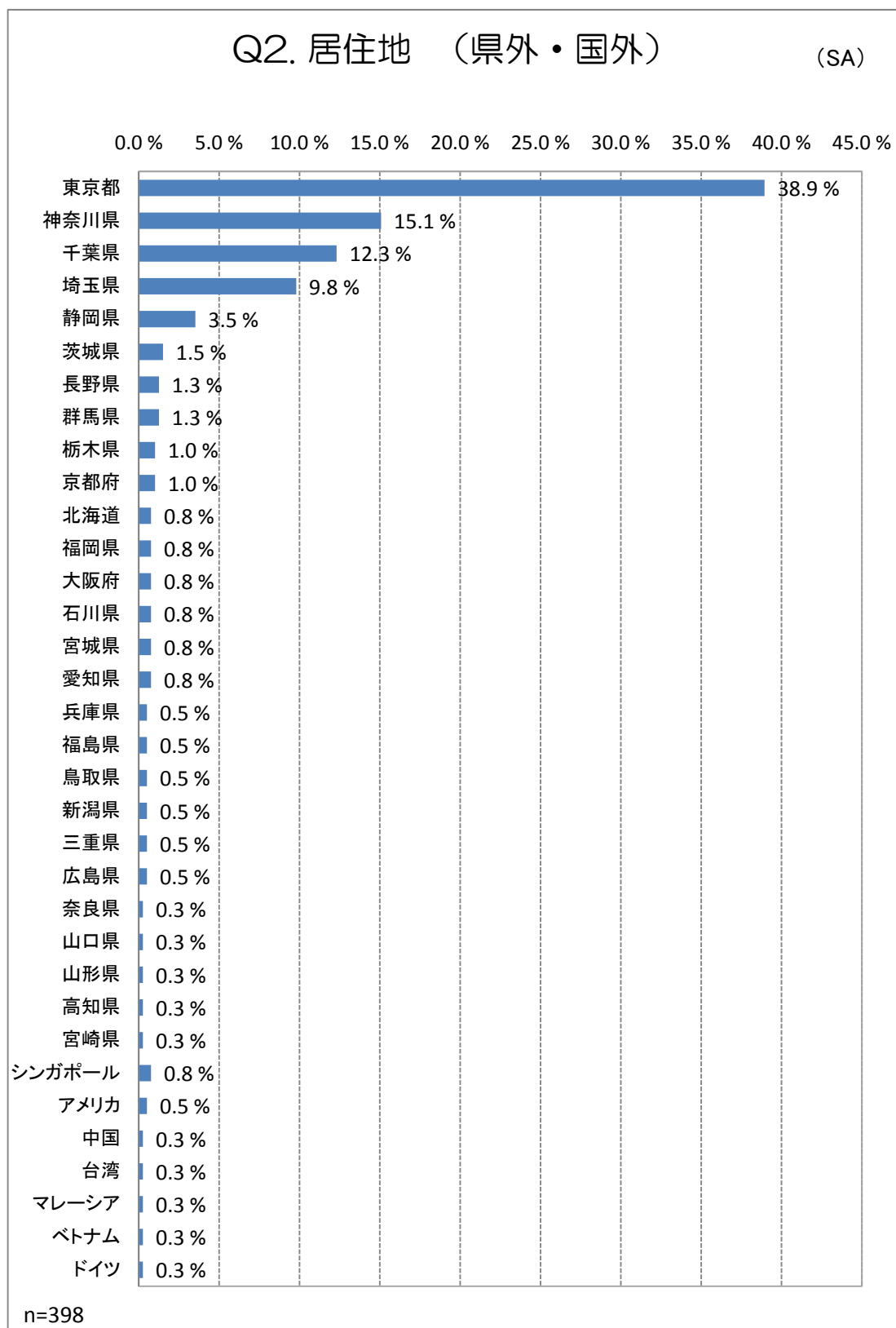


Q2. アンケート回答者の居住地

居住地は「県外」が 85.8%、「県内」が 14.2%である。

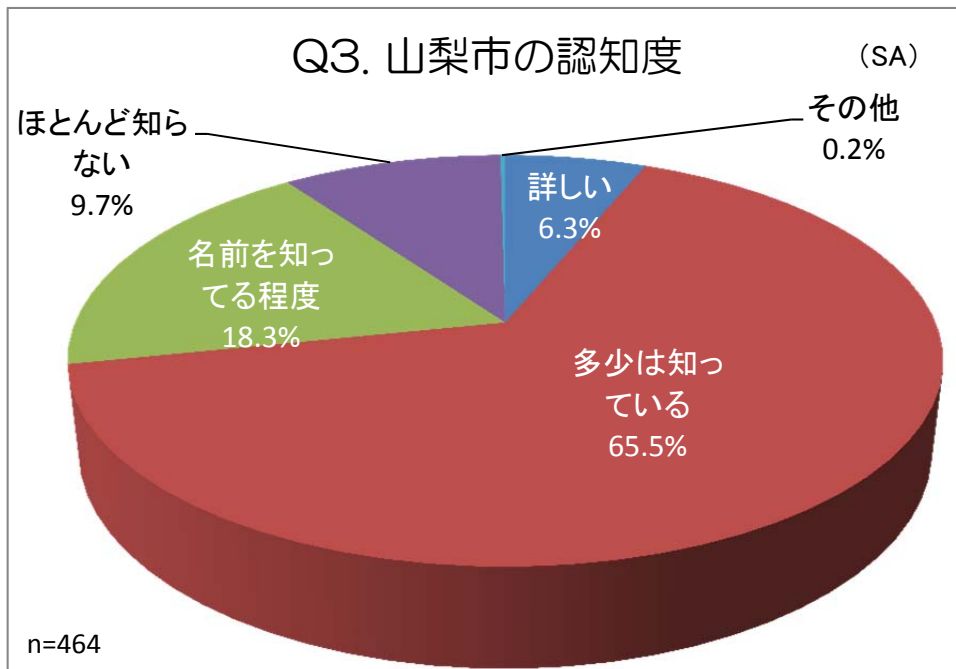


居住地を「県外・外国」とした回答者は、「東京都」が38.9%と最も多く、次いで「神奈川県」（15.1%）、「千葉県」（12.3%）の順となっており、隣接する都県からの来訪者が多かった。



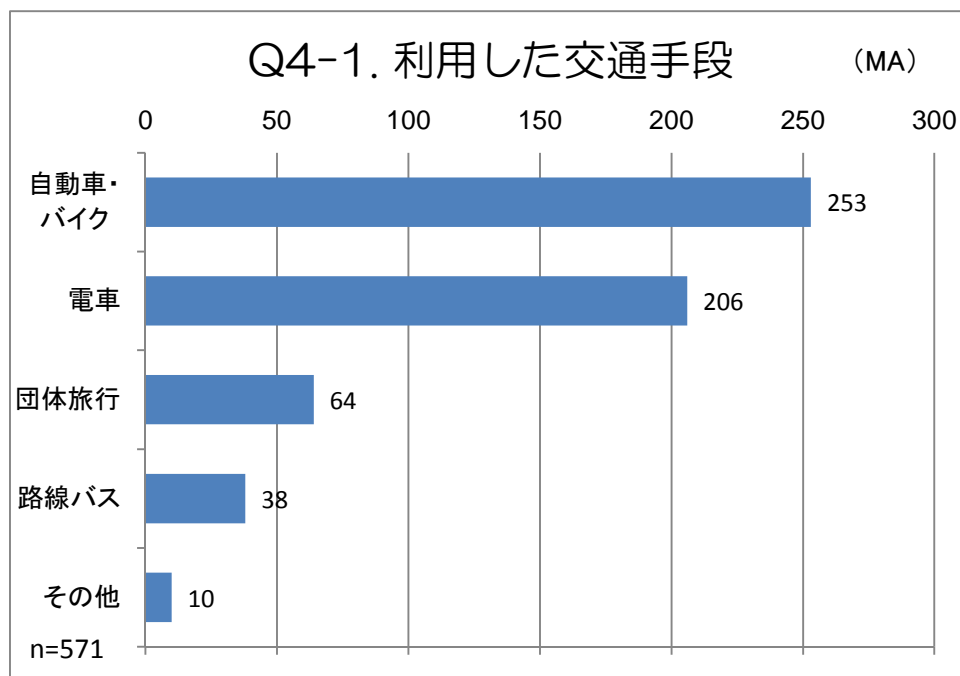
Q3. 山梨市の認知度

アンケート回答者の山梨市の認知度(山梨市のことを知っているか)は、「多少は知っている」(65.5%)、「名前を知っている程度」(18.3%)、「ほとんど知らない」(9.7%)の順となっている。



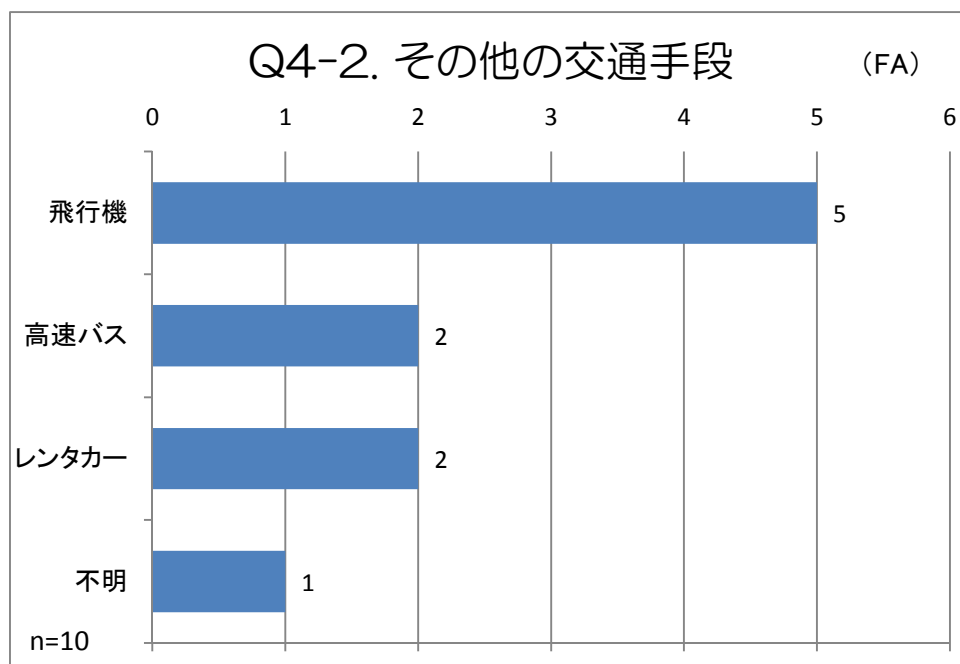
Q4-1. 観光客の交通手段

アンケート回答者が普段、旅行をするときに主に使う交通手段は、「自動車・バイク」が44.3%と最も多く、次いで「電車」（36.1%）、「団体旅行」（11.2%）の順となっている。



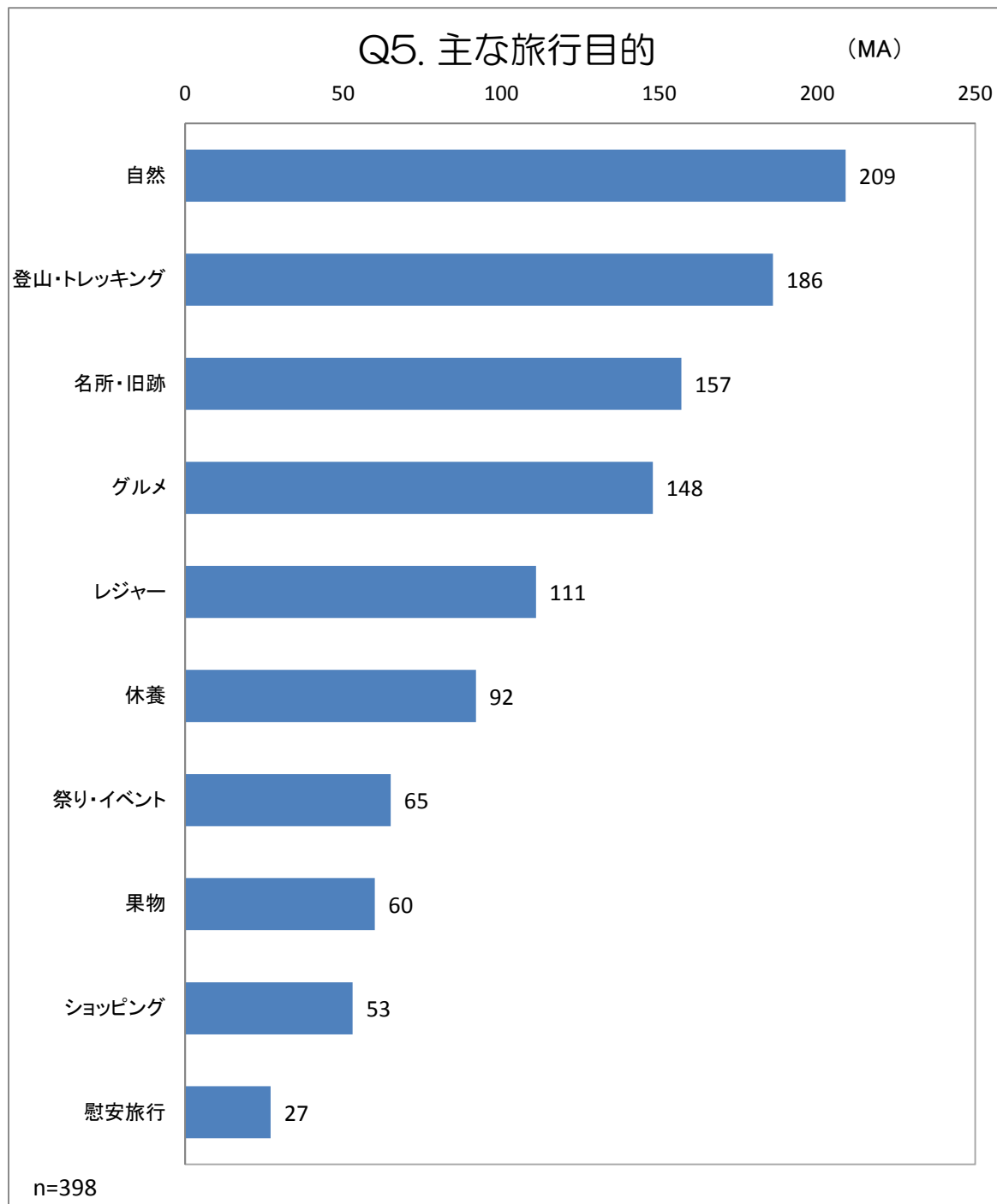
Q4-2. 観光客の交通手段（その他の内訳）

旅行をするときに主に使う交通手段「その他」の内訳は、「飛行機」（50.0%）、「レンタカー」（20.0%）、「高速バス」（20.0%）の順となっている。



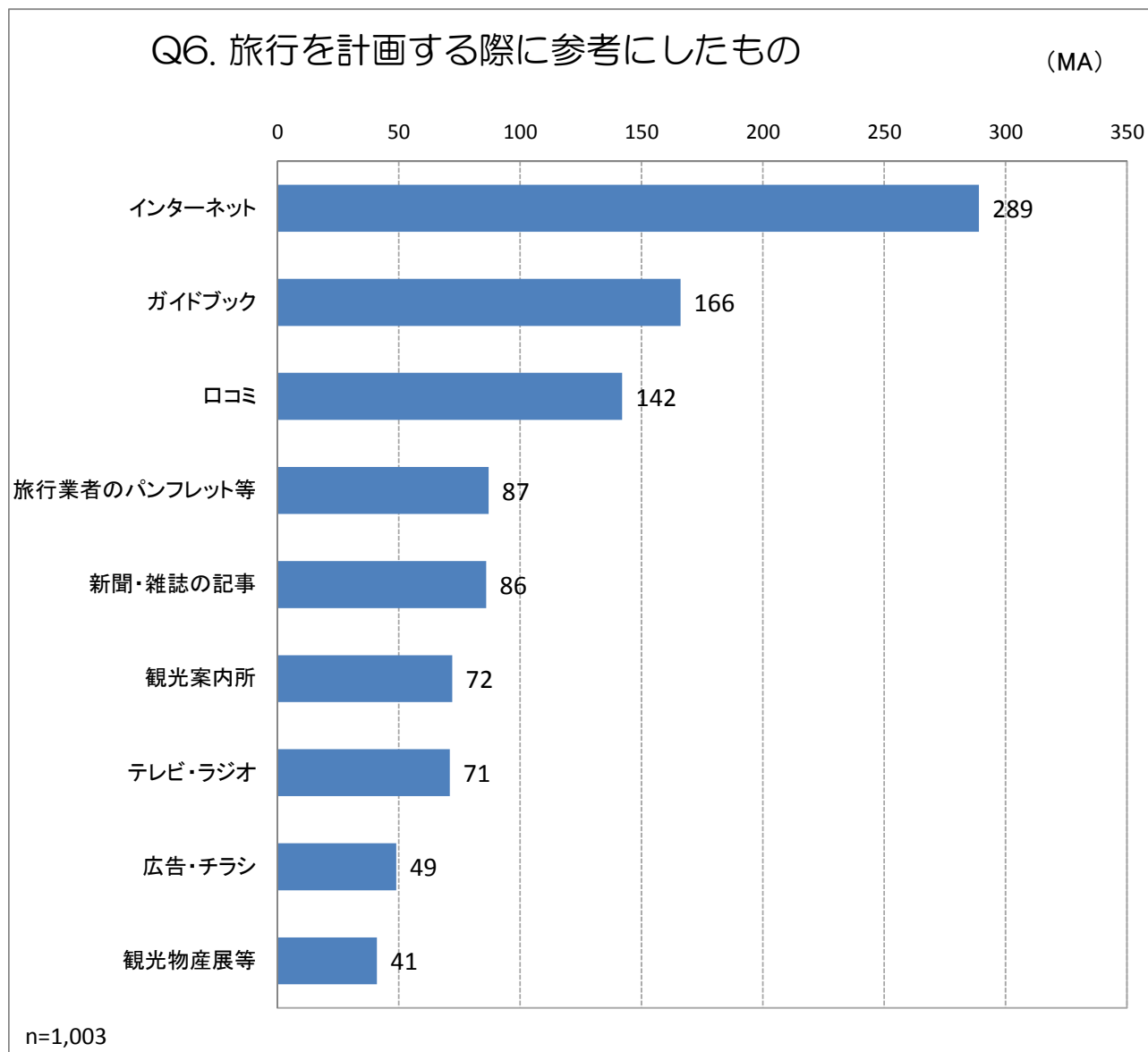
Q5. 観光客の旅行目的（複数回答可）

アンケート回答者の主な旅行目的は、「自然」が209件と最も多く、次いで「登山・トレッキング」（186件）、「名所・旧跡」（157件）、「グルメ」（148件）の順となっている。



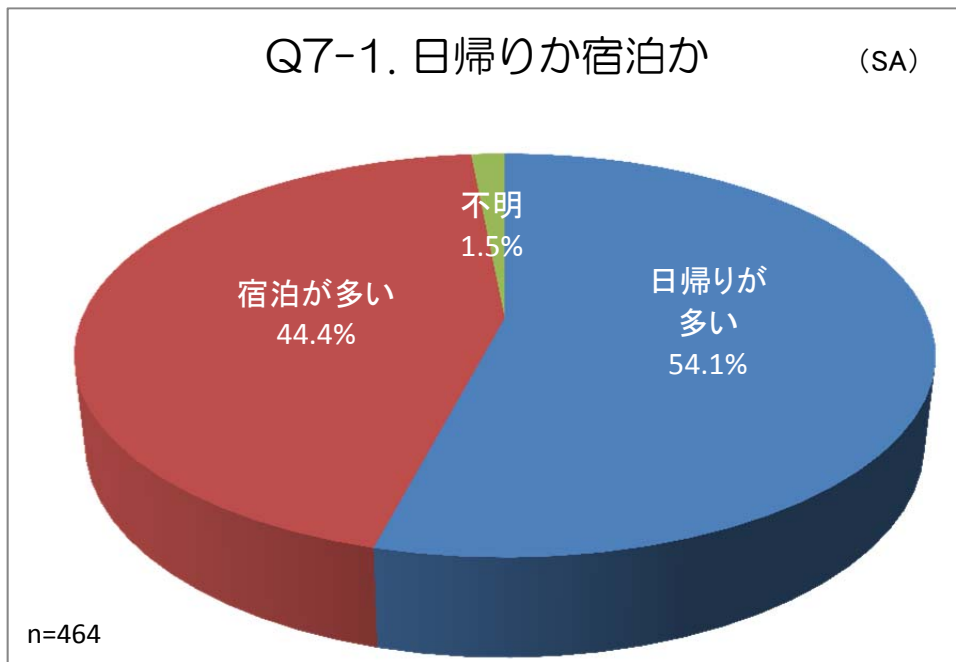
Q6. 旅行計画の参考資料（複数回答可）

アンケート回答者が旅行を計画する際に参考とするものとしては、「インターネット」が289件と最も多く、次いで「ガイドブック」（166件）、「ロコミ」（142件）の順となっている。



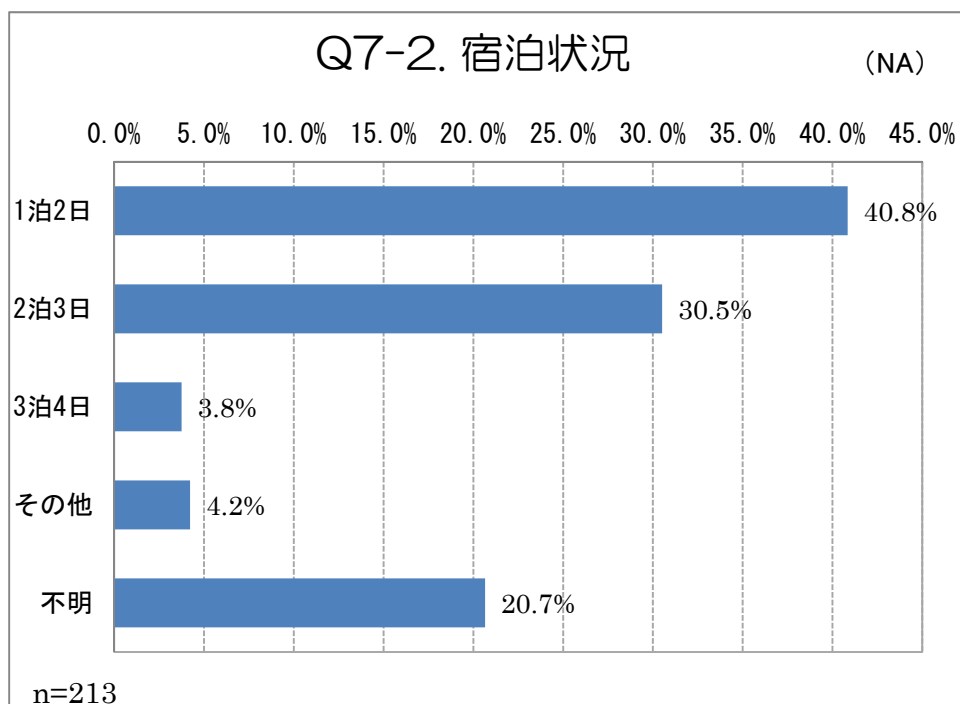
Q7-1. 観光客の旅行形態（日帰り、宿泊）

アンケート回答者の主な旅行形態は、「日帰り」が54.1%、「宿泊」が44.4%である。



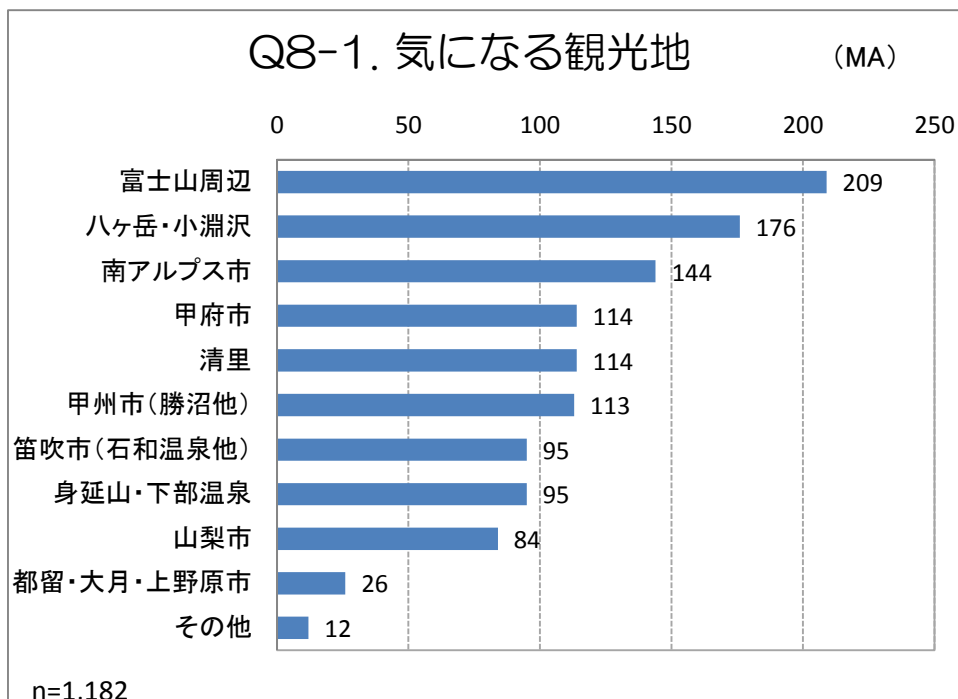
Q7-2. 観光客の旅行形態（宿泊数）

旅行形態を「宿泊」とした回答者の宿泊数は、「1泊2日」が40.8%と最も多く、「2泊3日」（30.5%）と合わせると、71.3%の回答率を占めており、短期間の旅行者が多い。



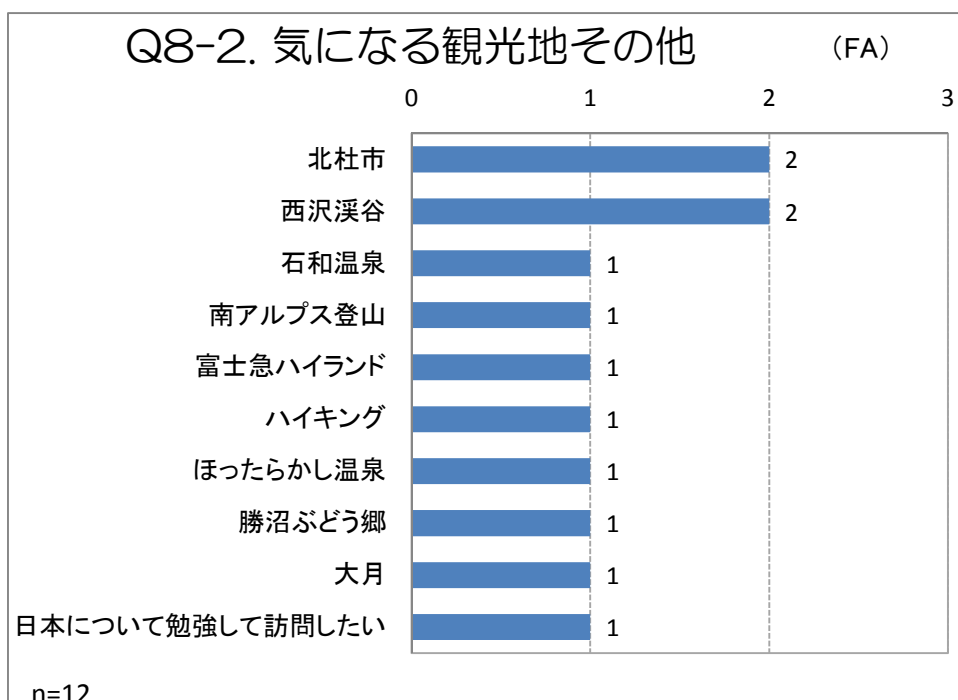
Q8-1. 観光客が興味を示している県内観光地（複数回答可）

アンケート回答者が興味を示している県内観光地は、「富士山周辺」が209人と最も多く、次いで「ハヶ岳・小淵沢」（176件）、「南アルプス市」（144件）の順となっている。



Q8-2. 観光客が興味を示しているその他の内訳

興味を示している観光地を「その他」とした回答者の内訳は、「北杜市」「西沢渓谷」が16.7%と最も多い。

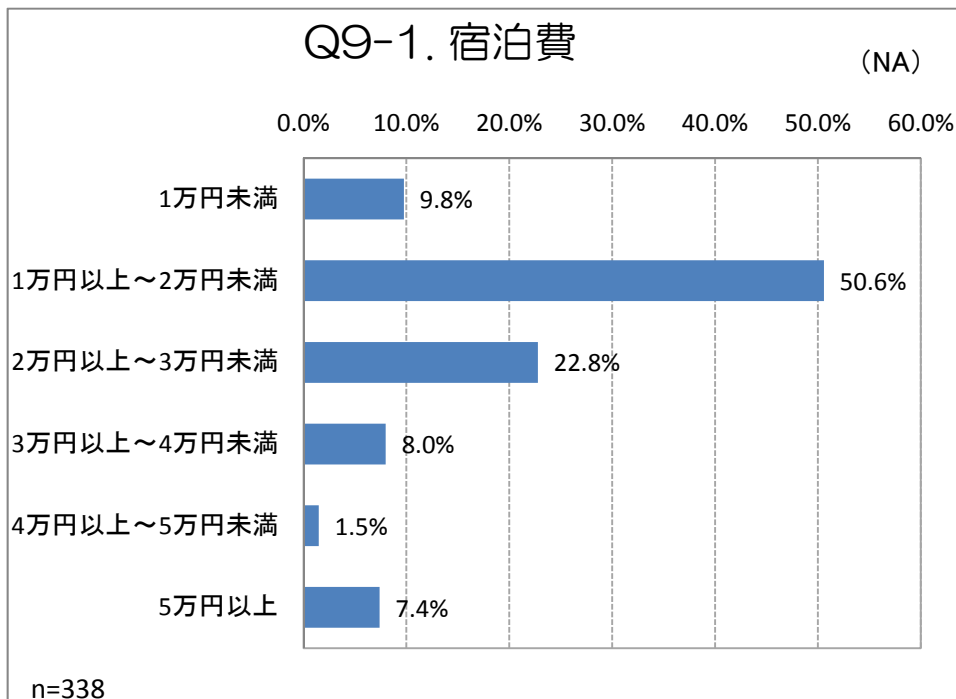


Q9. 観光消費額

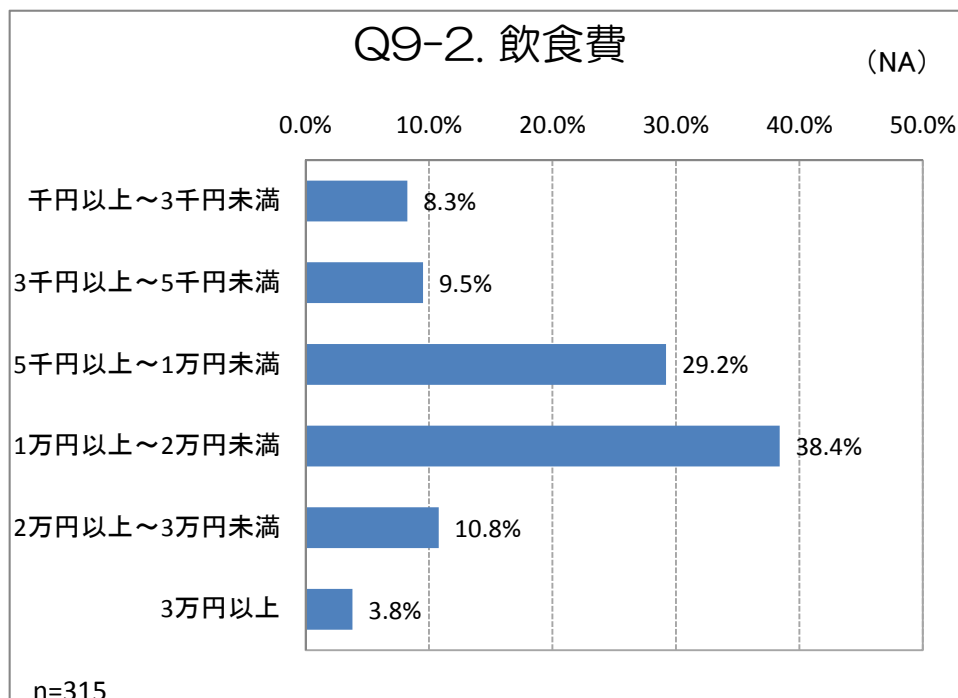
アンケート回答者の観光 1 回あたり平均消費額は、宿泊費が 18,873 円、宿泊費以外の支出が 59,006 円であった。

	宿泊費	飲食費	交通費	入場・観覧費	土産・買物費	その他	合計
平均消費額	18,873	10,172	14,137	4,427	7,917	22,353	77,879
	24.2%	13.1%	18.2%	5.7%	10.2%	28.7%	100.0%

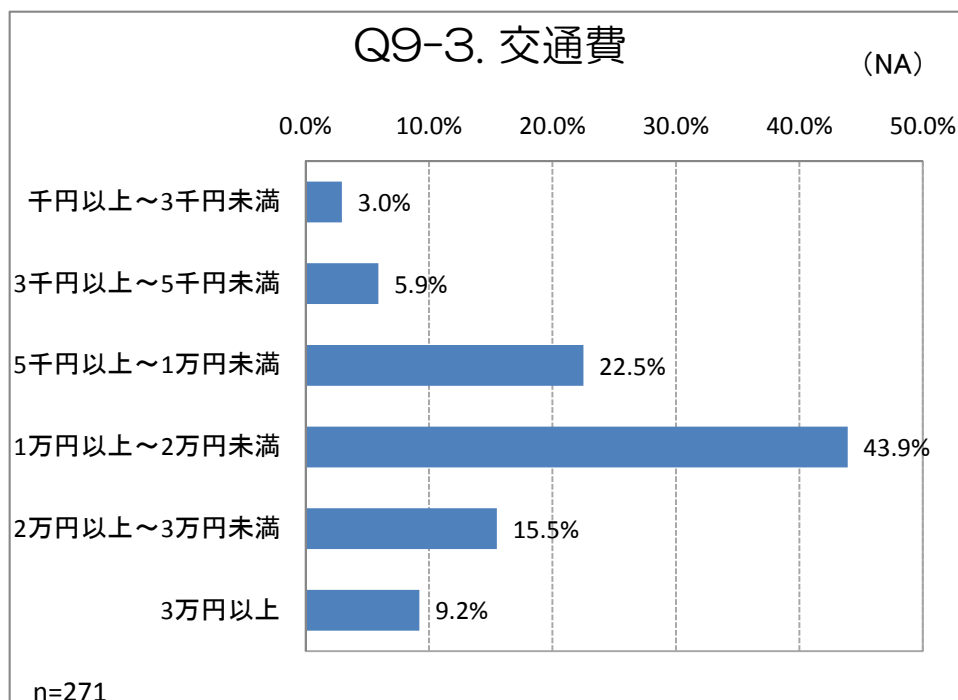
宿泊費は、「1 万円以上～2 万円未満」が 50.6%と最も高く、次いで「2 万円以上～3 万円未満」（22.8%）、「1 万円未満」（9.8%）の順となっている。



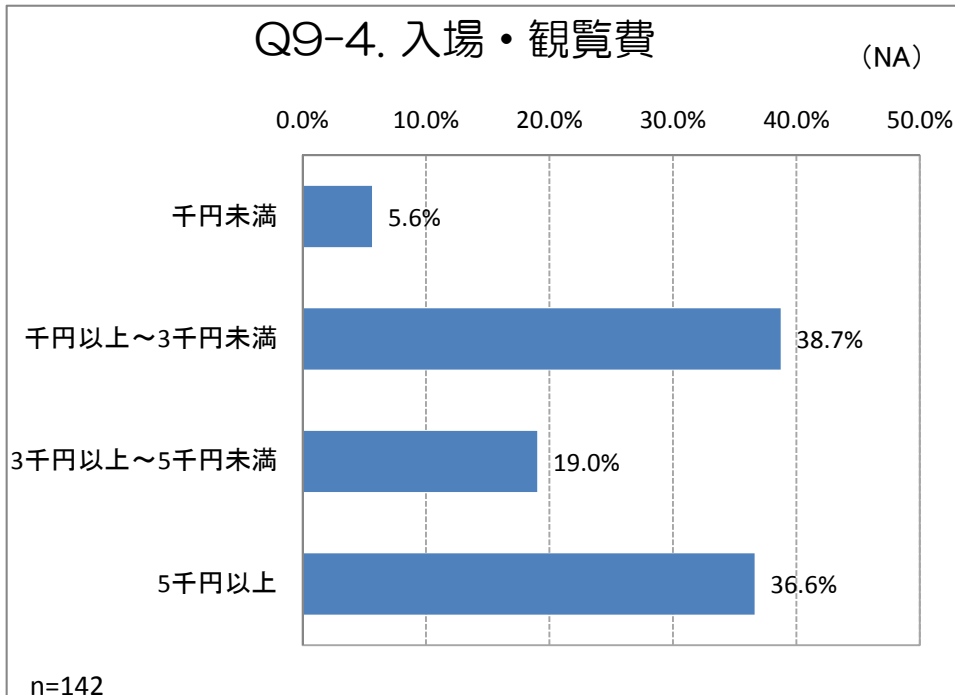
飲食費は、「1万円以上～2万円未満」が38.4%と最も高く、次いで「5千円以上～1万円未満」（29.2%）、「2万円以上～3万円未満」（10.8%）の順となっている。



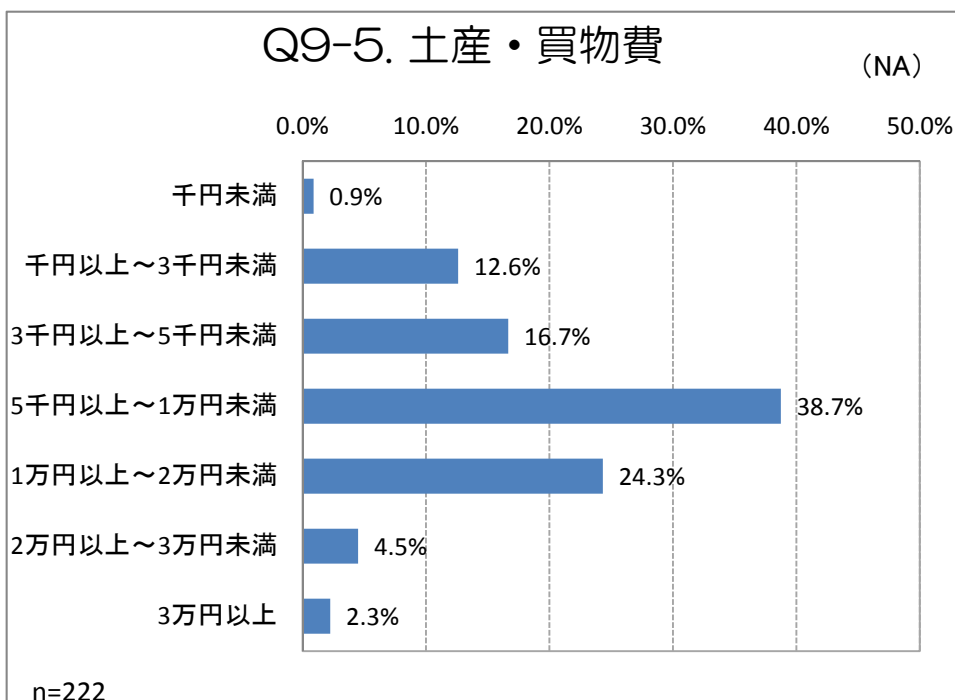
交通費は、「1万円以上～2万円未満」が43.9%と最も高く、次いで「5千円以上～1万円未満」（22.5%）、「2万円以上～3万円未満」（15.5%）の順となっている。



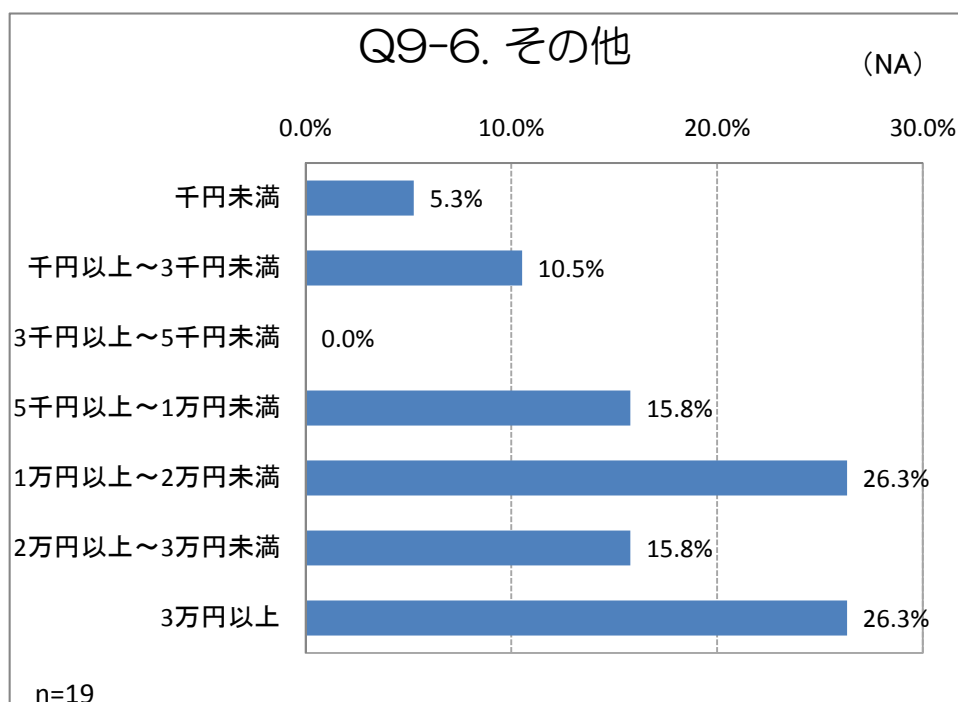
入場・観覧費は、「千円以上～3千円未満」が38.7%と最も高く、次いで「5千円以上」(36.6%)、「3千円以上～5千円未満」(19.0%)の順となっている。



土産・買物費は、「5千円以上～1万円未満」が38.7%と最も高く、次いで「1万円以上～2万円未満」(24.3%)、「3千円以上～5千円未満」(16.7%)の順となっている。

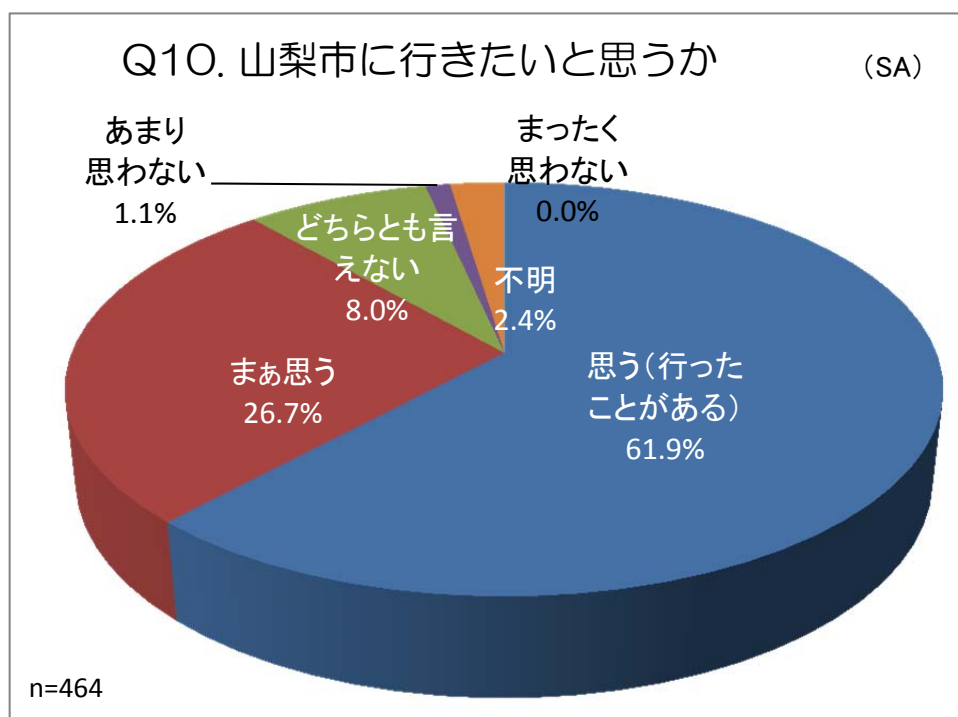


その他は、「1万円以上～2万円未満」「3万円以上」が26.3%と最も高い。



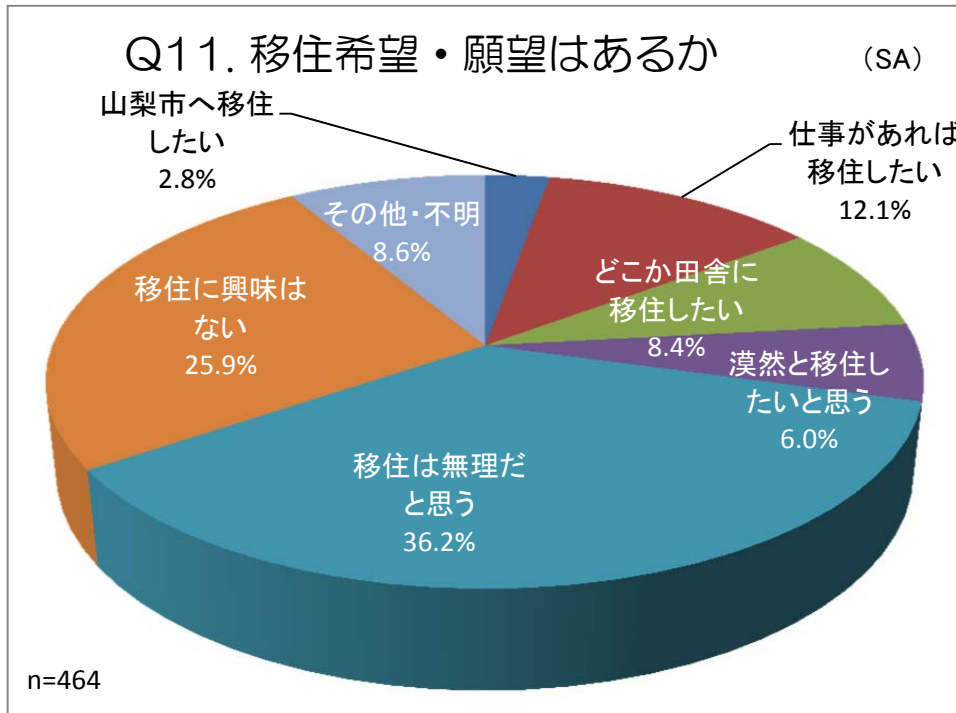
Q10. 山梨市に行きたいと思うか（または行ったことがあるか）

山梨市に行きたいと思うかと尋ねたところ、「思う（行ったことがある）」が61.9%、「まあ思う」が26.7%で、「思う」が合わせて88.6%と大半を占めた。



Q11. 移住希望・願望の有無

山梨市への移住については、「仕事があれば移住したい」（12.1%）、「どこか田舎に移住したい」（8.4%）、「漠然と移住したいと思う」（6.0%）「山梨市へ移住したい」（2.8%）であり、合わせて29.3%に移住の希望・願望があった。



■ 山梨市観光振興計画策定委員会 委員名簿

1	山梨県立大学教授	吉田 均	国際政策学部 国際コミュニケーション学科
2	山梨市観光協会会長	田草川和仁	観光協会山梨支部長
3	山梨市観光協会副会長	水上 真朗	観光協会牧丘支部長
4	山梨市観光協会副会長	雨宮 巧	観光協会三富支部長
5	山梨市商工会長	新谷 一男	
6	JAフルーツ山梨組合長	中澤 昭	
7	観光関連事業者（宿泊）	宮本 実佳	岩下温泉旅館
8	観光関連事業者（飲食）	小林富美子	餅菓子処こばやし製菓
9	観光関連事業者（宿泊）	山縣 祐子	川浦温泉 山県館
10	一般公募	雨宮 一昭	フルーツパーク株式会社 代表取締役
11	一般公募	山口 明	会社員
12	山梨市副市長	飯島 尚敏	
事務局	観光課長	穂野今朝貴	
事務局	観光課企画担当	宮本 誠	
事務局	観光課企画担当	神津 宜久	

■ 策定経緯

第1回 山梨市観光振興計画策定委員会（以下策定委員会）	
平成28年10月3日（月） 午前11時～ 山梨市役所504会議室	<ul style="list-style-type: none"> 委員の自己紹介 山梨市の観光の現状について 観光振興計画骨子について
第2回 策定委員会	
平成28年11月28日（月） 午後2時～ 山梨市役所203会議室	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興計画（案）について
第3回 策定委員会	
平成29年1月16日（月） 午後2時～ 山梨市役所203会議室	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興計画（案）について
パブリックコメントの実施	
平成29年2月14日（火）～ 平成29年2月27日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 市のホームページ、市役所の窓口などで意見を募集
第4回 策定委員会	
平成29年3月7日（火） 午後2時～ 山梨市役所203会議室	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントに対する回答について 計画（案）の決定
市長への報告会	
平成29年3月13日（月） 午後3時～ 山梨市役所市長応接室	<ul style="list-style-type: none"> 計画（案）の報告

山梨市

山梨市観光振興計画（平成 29 年 3 月）

山梨市役所観光課 〒405-8501 山梨県山梨市小原西 843

電話 0553-22-1111（代表） FAX 0553-23-2800 <https://www.city.yamanashi.yamanashi.jp/>